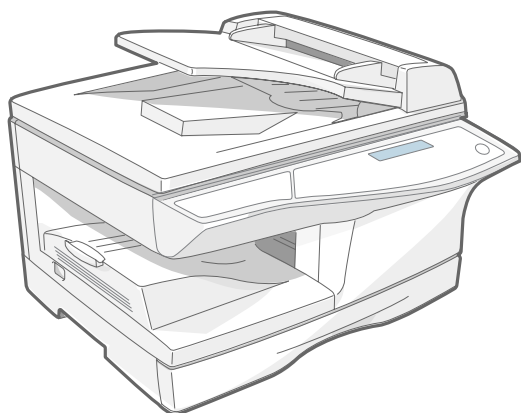
取扱説明書
デジタル複合機
形名 AR-155FG

ファクス編

ページ

このたびはシャープデジタル複合機AR-155FGをお買いあげいただき、まことにありがとうございました。

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。ご使用の前に「安全にお使いいただくために」を必ずお読みください。

この取扱説明書は、いつでも見ることができる所に必ず保存してください。万一、ご使用中にわからないことや具合の悪いことがおきたとき、きっとお役に立ちます。

はじめに

このたびは本機をお買いあげいただき、まことにありがとうございました。本書ではファクス機能についてのみ説明しています。安全にお使いいただくための注意事項をはじめ、用紙の補給方法、紙づまりの処置、その他周辺機器の取り扱いなど、おもに全般的な事柄に関しては、お使いの本体機器の取扱説明書（共通編）を参照してください。
その他の機能については以下の取扱説明書を必要に応じて参照してください。
コピー機能：取扱説明書（共通編）のコピー機能に関する章を参照してください。
プリンタ機能／スキャナ機能：付属のCD-ROMに収録されている電子マニュアルを参照してください。

お願い

● この取扱説明書（ファクス編）は内容について十分注意し作成しておりますが、万一ご使用中にご不審な点・お気付きのことがありましたら、もよりのシャープお客様ご相談窓口までご連絡ください。
● 取扱説明書に記載している操作画面、表示されるメッセージは改良変更などにより実際の表示と一部異なる場合があります。あらかじめご了承ください。
● この製品は厳重な品質管理と検査を経て出荷しておりますが、万一故障または不具合がありましたら、お買いあげの販売店、またはもよりのシャープお客様ご相談窓口までご連絡ください。
● お客様または第三者がこの製品および別売品の使用誤りや、使用中に生じた故障、その他不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

ご注意

• この取扱説明書の内容は、改良のため予告なく変更することがあります。

取扱説明書に記載している操作画面、表示されるメッセージなどは改良変更などにより実際の表示と一部異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って、正しい取り扱いをしてください。

正しい取り扱いをしていただいていても、電波の状況によりラジオやテレビの受信に影響を及ぼすことがあります。
そのようなときは、次の点にご注意ください。
• この製品とラジオ、テレビを十分に離してご使用ください。
• この製品とラジオ、テレビを別のコンセントに接続してください。
• 使用されるケーブルは指定のものをお使いください。
なお、詳しくはお買いあげの販売店、またはもよりのシャープお客様ご相談窓口までご相談ください。

取扱説明書に従って、正しい取り扱いをしてください。

この取扱説明書には、送信操作や登録・設定操作を簡潔に記載した「操作早見表」（88ページ）を掲載しています。本機のファクス機能をお使いになる際にご活用ください。

もくじ

5 便利な通信機能

6 こんなときは

7 付録

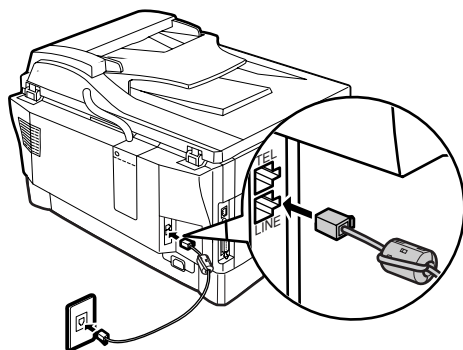
1 お使いになる前に

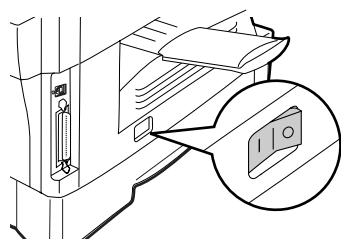
ファクスとして正しくお使いいただくために

この製品のファクス機能を正しくお使いいただくために注意していただくことがあります。
以下の注意を守っていただくようお願いします。

回線の接続について

本機器と電話線コンセントとの接続は、必ず付属の接続ケーブルをお使いください。接続する際、図のように本機背面にある回線端子（**LINE**）に差し込んでください。もう一方の端子は電話線コンセントに差し込みます。

「カチッ」と音がするまで確実に差し込んでください。

電源スイッチについて

本機の電源スイッチを、いつも“入”にしておいてください。（切らないでください）電源スイッチが入っていないと、ファクスの機能を使用することができません。
電源スイッチを切ると相手先からのファクス受信ができなくなります。
電源を切る前は、必ず動作中でないことを確認してください。動作中に電源を切ると、紙づまりが発生することがあります。また、設定途中の操作はすべて解除されます。

内蔵リチウム電池について

オートダイヤル（33ページ）など各種登録・設定の内容は、本機内部のリチウム電池で保護されます。

- 電池が消耗すると、登録・設定した内容が消えてしまいますので、必ず内容の控えを保管しておくようにお願いします。（79ページ「登録・設定した内容や通信記録をプリントする」参照）
- リチウム電池の寿命は、電源スイッチを連続で“切”にした状態で約5年間です。
- リチウム電池の寿命が切れたときは、お買いあげ販売店またはもよりのシャープお客様ご相談窓口に依頼してください。リチウム電池の寿命が切れると、機器が動作しなくなります。

その他

- 近くに強い雷が発生したときは、電源コードを AC コンセントから抜いていただいた方が安全です。電源コードをACコンセントから抜いてもメモリーに読み込まれている内容は消失しません。
- 海外では使用できません。
- この製品を使用できるのは日本国内のみです。海外では安全規格や、回線のインタフェースの仕様が異なり使用できません。
  ＜This machine is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.＞

設置後すぐに確認／登録すること

設置後、ファクスとしてお使いになる前に、以下の項目を確認／登録してください。

日付・時刻を設定する

この製品には時計が内蔵されています。日付・時刻は、時刻指定通信（73ページ）等で利用しますので、正確に設定してください。
日付・時刻の設定は、登録モードの「ニチジ セッテイ」で行います。（15ページ）
日付・時刻は、ディスプレイに表示されます。設定された日付と時刻が正確かどうか確認してください。まちがっている場合は修正してください。

発信元名・発信元番号を登録する

登録モードの「ハッシンモト トウロク」（18ページ）で、この製品を利用する利用者名・電話番号を登録します。（1件のみ）
登録した発信元名・発信元電話番号は、送信時に相手の記録紙の上部にプリントされます。また、発信元電話番号は、ポーリング発信時（67ページ「ポーリング機能の使いかた」参照）の許可番号になります。

登録した内容は、「発信元表」をプリントして確認することができます。（79ページ「登録・設定した内容や通信記録をプリントする」参照）

ファクスモードで使用できる用紙サイズについて

本機のファクスモードでは、A4、8-1/2"x11"、8-1/2"x14"サイズの用紙が出力紙として使用できます。他のモードで使用できても、ファクスモードでは使用できないサイズの用紙のみ本機にセットされている場合、ファクス受信データなどの出力紙がプリントできませんので、ご注意ください。（ファクス受信時の注意事項については、「ファクスを受信する」（57ページ）の項に記載されている内容もよくお読みください。）

トレイに用紙をセットする方法については、取扱説明書（共通編）の「用紙を補給する」を参照してください。

1

外部電話機との接続について

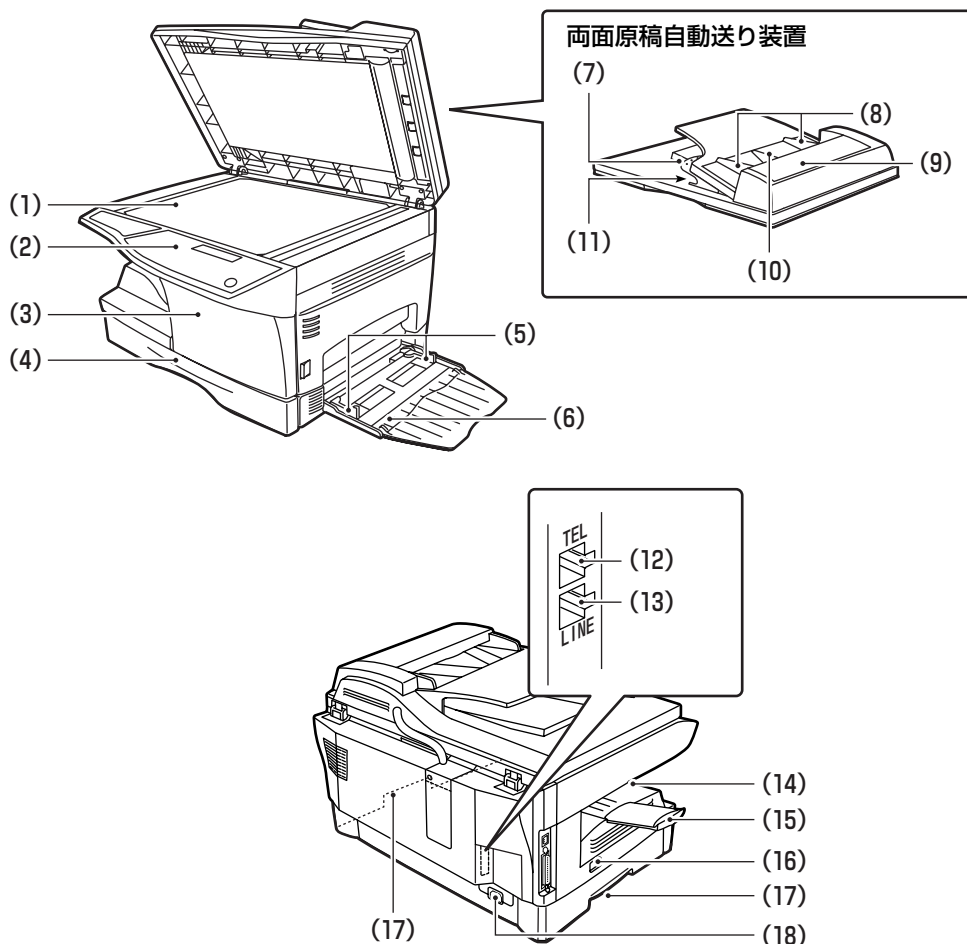
本機に外部電話機（電話機や留守番電話機）を接続することができます。（外部電話機の接続コードは本機背面の接続端子（TEL）に接続します。）外部電話機を接続したときは、「外部電話機を接続する」（39ページ）を参照して接続を“1:オン”に設定してください。

外部電話機を接続することにより、他の電話機と同じように電話をかけたり、受けたりできます。受話器を上げたときにファクス音が聞こえた場合は、本機が自動的にファクス受信を開始します。ただし、モデムを接続している場合は、ファクス信号検出機能をオフにし、リモート受信機能を利用してファクスを受信する必要があります。「本機と同じ回線でモデムを使用する場合の設定」（31ページ）および「リモート切替番号の設定」（32ページ）を参照してください。

● 留守番電話機を接続すれば、お出かけの際に伝言やファクスを受信することが可能です。お出かけの際、留守番電話機の応答メッセージを設定し、本機の受信設定を「ルスロク」モードに変更してください。（57ページ）

- 電話がつながってから45秒以内であれば、相手が音声メッセージを入れたあと、ファクスを送信することも可能です。「メッセージを入れたあと[スタート]ボタンを押すとファクスを送信できます」などの応答メッセージを登録しておくことをお勧めします。
- 応答メッセージの長さは10秒以内にしてください。長すぎると自動で送信されたファクスの受信が困難になります。

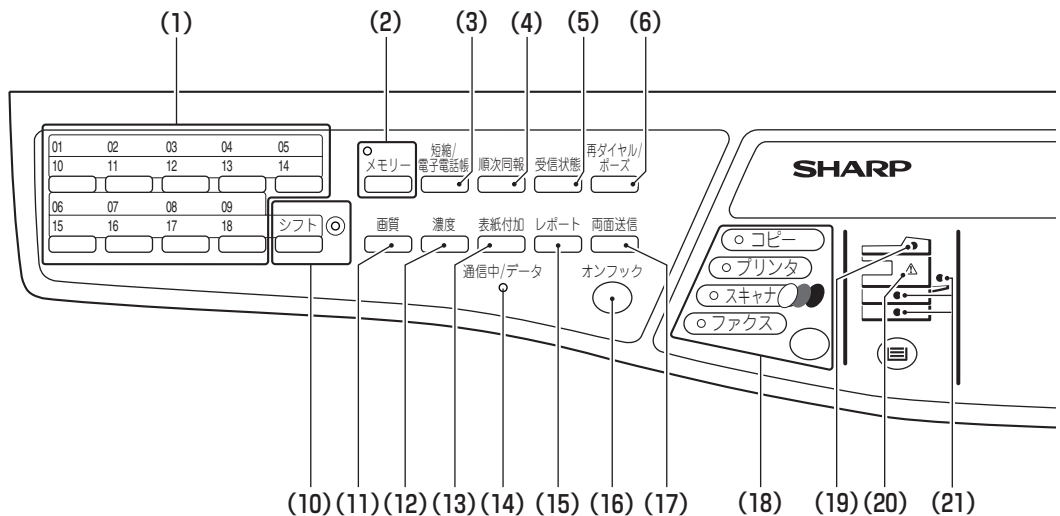
2 ファクス機能の設定

各部のなまえ

(1) 原稿台（ガラス面）
(2) 操作パネル
(3) 前カバー
(4) トレイ
(5) 手差しガイド
(6) 手差しトレイ
(7) 原稿反転トレイ
(8) 原稿ガイド
(9) 原稿給紙部カバー
(10)原稿セット台
(11)原稿出紙部

(12)外部電話機接続端子
本機に外部電話機を接続するための端子です。(6 ページ)

(13)電話回線接続端子
付属の接続ケーブルで本機と電話線コンセントを接続するための端子です。(4 ページ)

(14)排紙トレイ
(15)排紙サポート
(16)電源スイッチ
(17)移動用取っ手
(18)電源コネクター

操作パネルのなまえとはたらき

(1) ワンタッチキー
登録した相手にダイヤルするときに押します。

(2) [メモリー] キー／ランプ
メモリー送信（ランプ点灯時）と直接送信（ランプ消灯時）を切り替えるときに押します。

(3) [短縮 / 電子電話帳] キー
短縮番号を入力するときに押します。
また、このキーを 2 回押すと、登録した短縮番号やワンタッチダイヤル、グループダイヤルを検索することができます。

(4) [順次同報] キー
順次同報送信を行うときに押します。

(5) [受信状態] キー
受信モードを切り替えるときに押します。（57 ページ）

(6) [再ダイヤル / ポーズ] キー
直前にダイヤルした番号に自動的にかけ直すことができます。
また、ファクス番号を入力する際は、このキーを押してポーズ時間を入力します。

(7) ディスプレイ
相手先名や動作状態、各種設定内容を表示します。

(8) [クリア] キー（C）
動作を停止させるときに押します。また、文字や数値入力時に入力内容を消去する際に使います。
また、設定・登録画面で、1 つ前の画面に戻るときに使います。

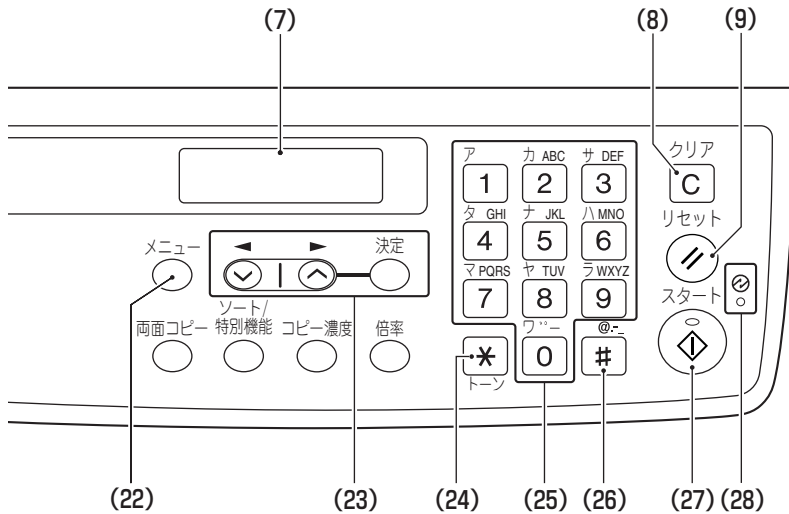
(9) [リセット] キー（⊘）
各種設定を終了または中断して待機状態に戻したいときに押します。

(10) [シフト] キー／ランプ
ワンタッチキーの番号を切り替えるときに押します。ランプが点灯しているときは、下の番号がワンタッチキーに適用されます。

(11) [画質] キー
送信時に画質を設定することができます。

(12) [濃度] キー
送信時に濃度を設定することができます。

(13) [表紙付加] キー
送信原稿に表紙やメッセージなどの表紙を追加する機能を使うときに押します。

(14) 通信中 / データランプ
送受信時に点灯し、メモリー内にデータがあるときは点滅します。

(15) [レポート] キー
登録した相手先やユーザープログラムなどのリストをプリントするときに押します。

(16) [オンフック] キー
手動でダイヤルするときに押します。回線を切るときは再度このキーを押します。

(17) [両面送信] キー
両面原稿を送信する際に押します。

(18) [モード選択] キー／ランプ
各機能の切り替えに使用します。選択したモードのランプが点灯します。

(19) 原稿送りランプ
両面原稿自動送り装置に原稿がセットされたときに点灯します。

(20) エラーランプ
紙づまりや他のエラーが発生した場合に点灯または点滅します。

(21) トレイ位置ランプ
選択されているトレイを表示します。プリント中に用紙がなくなったときや、トレイが正しくセットされていないときは、このランプが点滅します。

(22) [メニュー] キー
ユーザープログラムなどを設定するときに押します。

(23) [◄] キー（⌄）、[►] キー（⌃）、[決定] キー
[◄] キー（⌄）または [►] キー（⌃）を押して、ディスプレイに表示されたメニューや設定項目を選択します。[決定] キーを押すと選択されます。

(24) [⁎] キー
登録操作時に記号を入力するときに押します。
ダイヤル回線をお使いの場合は、このキーを押すと、プッシュ回線と同じトーン信号を出すことができます。

(25) 数字キー（10 キー）
ダイヤルするときや、オートダイヤルを登録する際ファクス番号や相手先名を入力するときに押します。

(26) [#] キー
登録操作時に記号を入力するときに押します。
[#] キーを押すと、[⁎] キーの逆順で記号が表示されます。
原稿台（ガラス面）からファクスを送信するときは、最後の原稿をメモリーに読み込んだあとにこのキーを押します。

(27) [スタート] キー（◇）／ランプ
次の操作を行うときに使います。
- ファクスの送信を開始するとき
- 原稿台（ガラス面）から原稿をメモリーに読み込むとき
- ファクスを手動で受信するとき

(28) 予熱ランプ
消費電力を抑える省エネルギー機能がはたらくと、ランプが点灯します。

ディスプレイについて

本機の操作パネルには2行の液晶ディスプレイがあり、操作中の様々なメッセージや設定が表示されます。ディスプレイは1行に最大20文字表示することができます。待機中はディスプレイに日付、時刻、受信モード、ファクス機能で使用できるメモリーの状態が表示されます。

（例）

```
01-05 WED   13:20
ﾀｲｷ中        ｼﾞﾄﾞｳ 100%
```

両面原稿自動送り装置に原稿をセットすると、2行目の表示は“タイキ中”から“ソウシンデキマス”に変わります。

〔メニュー〕キーを押して設定を行うときは、ディスプレイには次のように表示されます。

（例）

```
ﾌｧｸｽ ﾒｲﾝﾒﾆｭｰ
1:ｼﾞｺｸ ｼﾃｲ ｿｳｼﾝ
```

選択した設定項目または入力された情報は2行目に表示されます。

方向キーの使用

情報を設定、登録する際は、〔メニュー〕キーを押し、〔◄〕キー（⌄）または〔►〕キー（⌃）を押して設定する項目を選択してください。
方向キーは文字を入力する際、カーソルを移動するときにも使用します。

（例）

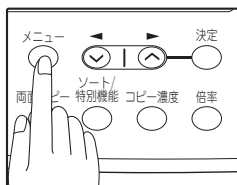
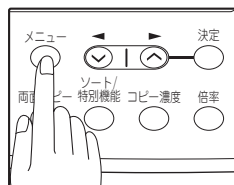
```
ﾌｧｸｽ ﾒｲﾝﾒﾆｭｰ
1:ｼﾞｺｸ ｼﾃｲ ｿｳｼﾝ
```

〔◄〕キー（⌄）または〔►〕キー（⌃）で2行目に表示される項目を変更します。

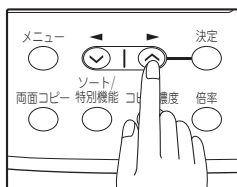
メモ
数字キーで番号を入力することで項目を選択することもできます。〔メニュー〕キーを押したあと選択したい項目の番号を数字キーで入力します。（項目の番号は、各項目の先頭に表示されます。）数字キーで入力すると、入力した番号の項目が選択または確定されます。

呼出音の音量を調節する

次の手順で本機の呼出音の音量を調節できます。

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で“4:ユーザープログラム”を表示させ、[決定]キーを押す

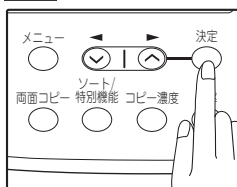
3 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で“16:ヨビダシ オンリョウ セッテイ”を表示させ、[決定]キーを押す

4 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で呼出音量を選択する

次の中から選択します。
1:オフ
2:ショウ（小）
3:チュウ（中）
4:ダイ（大）
呼出音を鳴らさないようにするときは、“1:オフ”を選択します。

メモ 呼出音が“1:オフ”に設定されていても外部電話機の呼出音は鳴ります。

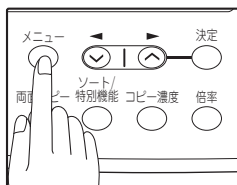
5 [決定]キーを押す

6 [メニュー]キーを押す

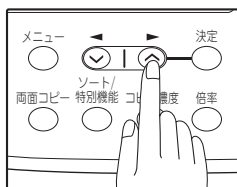
待機状態に戻ります。

2

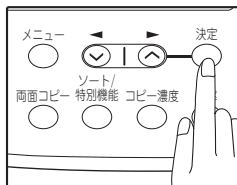
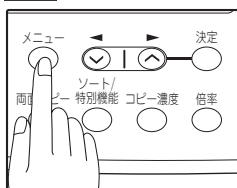
終了音の長さを設定する

次の手順で終了音（送受信の完了をお知らせする音）の長さを設定できます。

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（﹀）または[►]キー（︿）で“4:ユーザープログラム”を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◄]キー（﹀）または[►]キー（︿）で“15:シュウリョウオン ナガサセッテイ”を表示させ、[決定]キーを押す

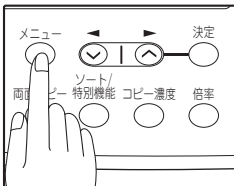
4 [◄]キー（﹀）または[►]キー（︿）で終了音の長さを設定する

次の中から選択します。
1:3ビョウ（3秒）
2:1ビョウ（1秒）
3:オフ
終了音を鳴らなくするときは、“3:オフ”を選択します。

5 [決定]キーを押す

6 [メニュー]キーを押す

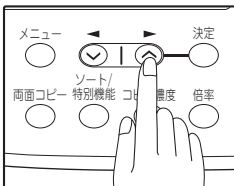
待機状態に戻ります。

終了音の音量を調節する

次の手順で終了音（送受信の完了をお知らせする音）の音量を調節できます。

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“4:ユーザープログラム”を表示させ、[決定]キーを押す

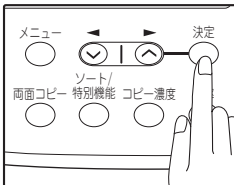
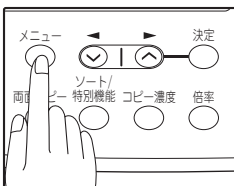
3 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“17:シュウリョウ オンリョウ セッテイ”を表示させ、[決定]キーを押す

4 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で終了音の音量を設定する

次の中から選択します。
1:オフ
2:ショウ（小）
3:チュウ（中）
4:ダイ（大）
終了音を鳴らなくするときは、“1:オフ” を選択します。

5 [決定]キーを押す

6 [メニュー]キーを押す

待機状態に戻ります。

2

ファクス設定

文字入力のしかた

数字キーで文字を入力することができます。文字は数字キー[1]から[9]の上に表示されています。希望の文字が表示されるまで押してください。
[再ダイヤル/ポーズ]キーを押すと、英字入力モードに切り替わり、アルファベットを入力することができます。カタカナ入力モードに戻すときは、再度[再ダイヤル/ポーズ]キーを押してください。

数字キーを押すことにより、次の文字を入力することができます。

キー	入力できる文字
1	ア イ ウ エ オ ァ ィ ゥ ェ ォ 1 スペース
2	カ キ ク ケ コ 2
3	サ シ ス セ ソ 3
4	タ チ ツ テ ト ッ 4
5	ナ ニ ヌ ネ ノ 5
6	ハ ヒ フ ヘ ホ 6
7	マ ミ ム メ モ 7
8	ヤ ユ ヨ ャ ュ ョ 8
9	ラ リ ル レ ロ 9
＊	＊ } {] [? > = ; : , +) ('& % $ " !/_-.@ #
0	ワ ヲ ン ゛ ゜ - 、 。 0
#	# @.-_/ ! "$ % & '( )+ ,: ; = > ? [ ] { } ＊

[再ダイヤル／ポーズ]キーを押すごとに切り替わる

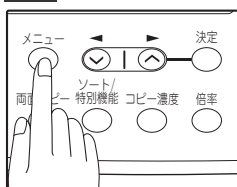
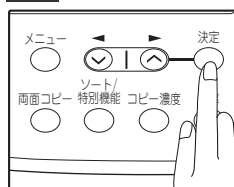
キー	入力できる文字
1	1 スペース
2	A B C 2 a b c
3	D E F 3 d e f
4	G H I 4 g h i
5	J K L 5 j k l
6	M N O 6 m n o
7	P Q R S 7 p q r s
8	T U V 8 t u v
9	W X Y Z 9 w x y z
＊	＊ } {] [? > = ; : , +) ('& % $ " !/_-.@ #
0	0
#	# @.-_/ ! "$ % & '( )+ ,: ; = > ? [ ] { } ＊

● 同じキーで連続した2つの文字を入力するときは、最初の文字を入力してから[►] キー（⌄）を押してカーソルを移動し、2つ目の文字を入力します。

● 入力する文字をまちがえたときは、次の手順で入力し直してください。
1. [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で、カーソルをまちがえた文字の直後に移動させる
2. [クリア]キー（C）を押す
カーソルの1つ前にある文字が消去されます。
3. 正しい文字を入力する
文字はカーソルの直前に挿入されます。

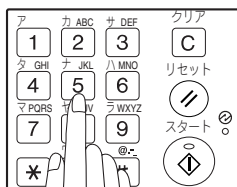
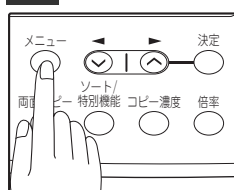
日付・時刻を設定する

ディスプレイに表示される日付と時刻は、次の手順で操作パネルから設定してください。入力をまちがえたときは、[クリア]キー（C）を押して削除したあと入力し直してください。

- 時刻の表示形式は、24時間制か12時間制を選択することができます。（16ページ）また、日付の表示形式は、月/日/年、日/月/年、年/月/日から選択することができます。（17ページ）
- ファクス送信した原稿の画像が相手側で出力される際、この操作で設定した日付と時刻に基づき、送信日時が用紙の上部に印字されます。

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“2:トウロク モード”を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“2:ニチジ セッテイ”を表示させ、[決定]キーを押す

4 数字キーで年、月、日を入力し、[決定]キーを押す

工場出荷時、日付の表示形式は年/月/日に設定されています。

5 数字キーで時刻を入力する

工場出荷時、時刻の表示形式は24時間制に設定されています。
表示形式が12時間制に設定されている（16ページ）場合は、[◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）でAM（午前）またはPM（午後）を選択してください。

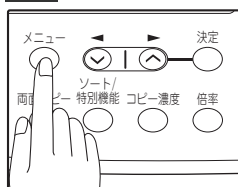
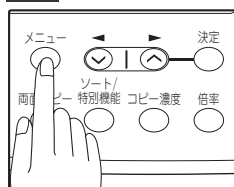
6 [決定]キーを押す

7 [メニュー]キーを押す

待機状態に戻ります。

時刻の表示形式を変更するには

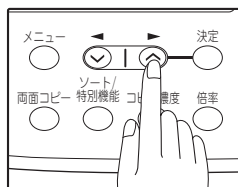
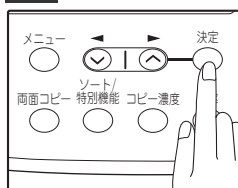
ディスプレイに表示される時刻（15ページ）の表示形式を12時間制または24時間制に変更するときは、次の手順で行います。

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で“4:ユーザープログラム”を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で“20:ニチジ セッテイ フォーマット”を表示させ、[決定]キーを押す

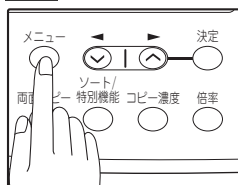
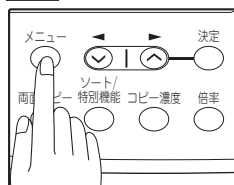
4 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で“1:ジカン フォーマット”を表示させ、[決定]キーを押す

5 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で“1:12ジカン”または“2:24ジカン”を選択する

6 [決定]キーを押す

7 [メニュー]キーを押す

待機状態に戻ります。

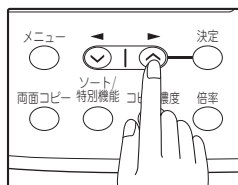
日付の表示形式を変更するには

通信記録の各種一覧表（79ページ）や表紙付加機能（49ページ）を有効にした場合に表紙に印字される日付の順序を変更するときは、次の手順で行います。
この設定を変更してもディスプレイに表示される日付（15ページ）の順序は変わりません。

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で"4:ユーザープログラム"を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で"20:ニチジ セッテイ フォーマット"を表示させ、[決定]キーを押す

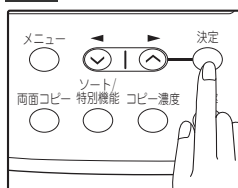
4 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で"2:ヒヅケ フォーマット"を表示させ、[決定]キーを押す

5 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で印字される日付の順序を選択する

次の中から選択します。
1:ガツ/ニチ/ネン（月/日/年）
2:ニチ/ガツ/ネン（日/月/年）
3:ネン/ガツ/ニチ（年/月/日）

6 [決定]キーを押す

7 [メニュー]キーを押す

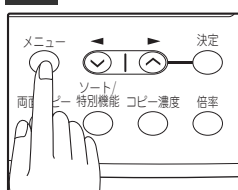
待機状態に戻ります。

2

発信元名・発信元番号を登録する

メモ　〔メニュー〕キーを押し、〔◀〕キー（⌄）または〔▶〕キー（⌃）を押すごとに項目が切り替わります。〔決定〕キーを押すとディスプレイに表示されている項目を選択することができます。名前、ファクス番号、日付などの入力方法は、下記の説明を参照してください。

ファクス送信した原稿の画像が相手側で出力される際、用紙の上部に発信元情報として印字される発信元名と発信元番号（ファクス番号）は次の手順で登録を行います。
文字入力をまちがえたときは、「文字入力のしかた」（14ページ）を参照して入力し直してください。

次の手順で発信元名と発信元ファクス番号を入力してください。

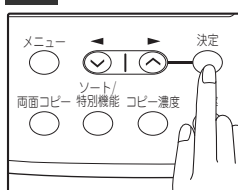
1 [メニュー]キーを押す

2 [◀]キー（⌄）または[▶]キー（⌃）で"2:トウロク モード"を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◀]キー（⌄）または[▶]キー（⌃）で"3:ハッシンモト トウロク"を表示させ、[決定]キーを押す

4 [◀]キー（⌄）または[▶]キー（⌃）で"1:トウロク"を選択し、[決定]キーを押す

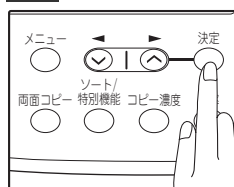
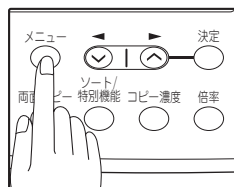
5 数字キーでファクス番号を入力する

ファクス番号（最大20桁）を数字キーで入力します。また、〔＊〕キーを押すと「+」が、〔#〕キーを押すとスペースが入力されます。

6 [決定]キーを押す

ディスプレイに"ハッシンモト メイ 入力"と表示されます。

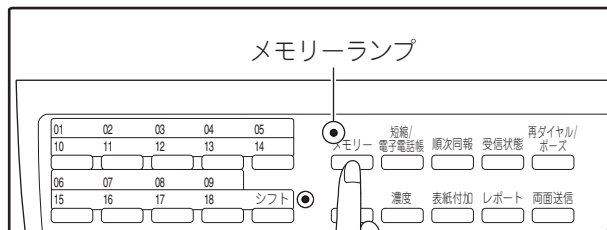
7 数字キーで発信元名を入力する

文字入力のしかたについては、「文字入力のしかた」（14ページ）を参照してください。（最大40文字まで入力できます。）
スペースを入力するときは、〔1〕キーをカナ入力モードでは12回、英字入力モードでは2回押します。

8 [決定]キーを押す

9 [メニュー]キーを押す

待機状態に戻ります。

メモ　登録済の発信元情報を消去するときは、次の操作をします。
(1) 手順4で"2:ショウキョ"を選択し、〔決定〕キーを押す
(2) ディスプレイに"ケッテイキー デ ショウキョ"と表示されたら〔決定〕キーを押す
- 消去を取り止める場合は〔決定〕キーを押さずに〔クリア〕キー（C）を押してください。

送信モードの選択

本機はメモリー送信と直接送信の2種類の送信モードを備えています。送信モードの切り替えは、［メモリー］キーで行います。メモリーランプが点灯しているときはメモリー送信が選択されており、ランプが消灯しているときは直接送信が選択されています。

それぞれのモードでは、送信は次のように行われます。

メモリー送信（メモリーランプが点灯しているとき）

メモリー送信モードでは、原稿をいったんメモリーに読み込んでから相手先へ送信します。両面原稿自動送り装置から送信操作を行ったときで、実行中の送信ジョブや先に予約された送信ジョブがない（通信回線が使用されていない）ときは、原稿の読み込み動作と並行して、送信先へダイヤルし読み込みが完了した原稿の送信を開始します。この送信方法をクイックオンライン送信と呼びます。予約されたファクスジョブがある場合や送信中に次の送信を予約する場合、および原稿台（ガラス面）から複数ページの原稿を送信する場合は、原稿をすべてメモリーに読み込んでから、送信先へダイヤルして送信されます。

送信予約（64ページ）、順次同報送信（65ページ）、グループキーを使用した順次同報送信（66ページ）、時刻指定通信（73ページ）で送信操作を行ったときは、原稿をすべてメモリーに読み込んでから送信されます。

直接送信（メモリーランプが消灯しているとき）

直接送信モードで送信を行うと、送信先を呼び出してから原稿を直接送信します。
直接送信モードは本機のメモリーを使用しないので、メモリーがいっぱいの場合でも送信できます。

- 直接送信実行中は、ファクスジョブを新たに予約することはできません。
- 直接送信モードで原稿台（ガラス面）から送信するときは、原稿は1枚しか送信できません。
- 直接送信モードでは、次の機能が使用できません。
  送信予約（64ページ）、順次同報送信（65ページ）、グループキーを使用した順次同報送信（66ページ）、時刻指定通信（73ページ）

受信モードの選択

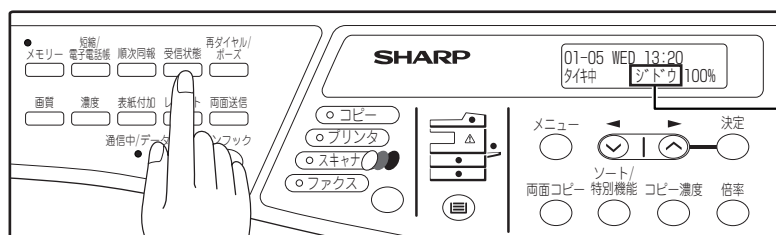
本機では、電話やファクスを受けるために、3つの受信モードがあります。

● 自動モード（ジドウ）
自動的に応答してファクスを受信したいときに選択します。「TEL/FAX ジドウキリカエ」機能が設定されている場合は、電話とファクスを自動的に切り替えます。（電話として使用するには、外部電話機が必要です。）

● 手動モード（シュドウ）
手動でファクスを受信するときに選択します。〔オンフック〕キーを押すか、外部電話機の受話器を上げてかかってきた電話を受け、相手がファクスを送信してきたときは、①〔スタート〕キー（ ）を押す。②〔◄〕キー（ ）または〔►〕キー（ ）で“2:ジュシン”を選択し、〔決定〕キーまたは〔スタート〕キー（ ）を押す。の操作で受信することができます。

● 留守録モード（ルスロク）
留守番電話機能付の外部電話機が本機に接続してあり、留守番電話で応答させるときにこのモードを選択します。外出中でも伝言やファクスを受けることができます。

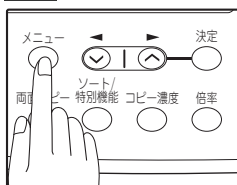
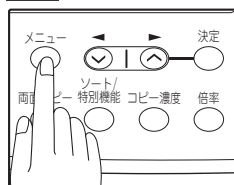
メモ
「ダイヤル イン セッテイ」（42ページ）または「TEL/FAX ジドウキリカエ」（40ページ）が設定されているときは、自動モードに設定してください。

受信モードは、〔受信状態〕キーを押して希望の受信モードに切り替えます。

選択した受信モードが表示されます。

受信モードの詳細については、「ファクスを受信する」（57ページ）を参照してください。

自動受信コール回数の設定

受信モードが“ジドウ”のときに、本機がファクスを受信するまでの呼出音の回数を設定することができます。
設定した回数の呼出音が鳴り終わると、受信を開始します。本機の設置場所が居室から離れていて、呼出音を鳴らすことで受信したことを知りたい場合など、お好みに応じて呼出音の回数を設定してください。

2

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“4:ユーザープログラム”を表示させ、[決定]キーを押す

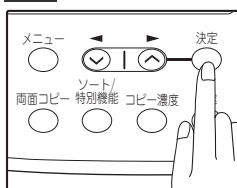
3 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“4:ジドウジュシンコールカイスウ”を表示させ、[決定]キーを押す

4 数字キーで呼出音の回数を設定する

呼出音の回数を“0”～“15”のあいだで設定してください。

5 [決定]キーを押す

6 [メニュー]キーを押す

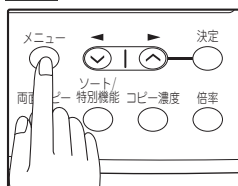
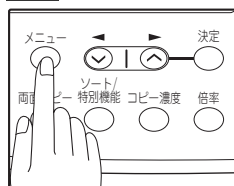
待機状態に戻ります。

メモ　受信モードが“シュドウ”の場合は、応答するまで呼出音が鳴ります。

記録紙サイズの設定

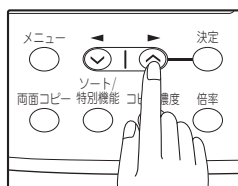
受信したファクスをプリントする用紙のサイズを設定します。トレイの用紙サイズがA4、8.5"x11"、8.5"x14"以外に設定されているときは、用紙なしとして扱われます。記録紙サイズの設定は、取扱説明書（共通編）の「用紙を補給する」を参照してください。

使用するトレイを変更するには（1段給紙ユニット装着時）

別売品の1段給紙ユニットを装着し、2つのトレイがある状態では、受信データをプリントする際に使用するトレイを設定できます。

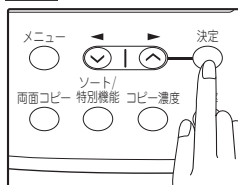
1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で“4:ユーザープログラム”を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で“26:トレイ センタク”を表示させ、[決定]キーを押す

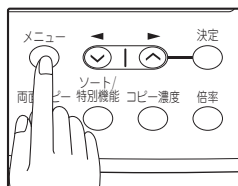
4 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）でトレイを選択する

次の中から選択します。
1:ジドウ（自動）
2:トレイ1
3:トレイ2

5 [決定]キーを押す

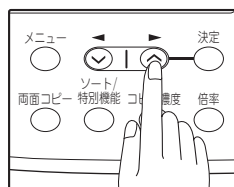
6 [メニュー]キーを押す

待機状態に戻ります。

電話回線の種類を設定する

使用する電話回線の種類を設定します。最初は“1:トーン（プッシュ）”に設定されています。回線種類の確認方法は、「電話回線の種類について」を参照してください。

1 **[メニュー]キーを押す**

2 **[◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で“4:ユーザープログラム”を表示させ、[決定]キーを押す**

3 **[◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で“18:カイセン シュルイ セッテイ”を表示させ、[決定]キーを押す**

4 **[◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で電話回線の種類を選択する**

次の中から選択します。
1:トーン（プッシュ）
2:10PPS（ダイヤル）
3:20PPS（ダイヤル）
4:ジドウ
“4:ジドウ”を選択すると、回線の種類を自動で設定します。ただし10PPSのダイヤル回線を使用しているときは手動で“2:10PPS”を選択してください。

5 **[決定]キーを押す**

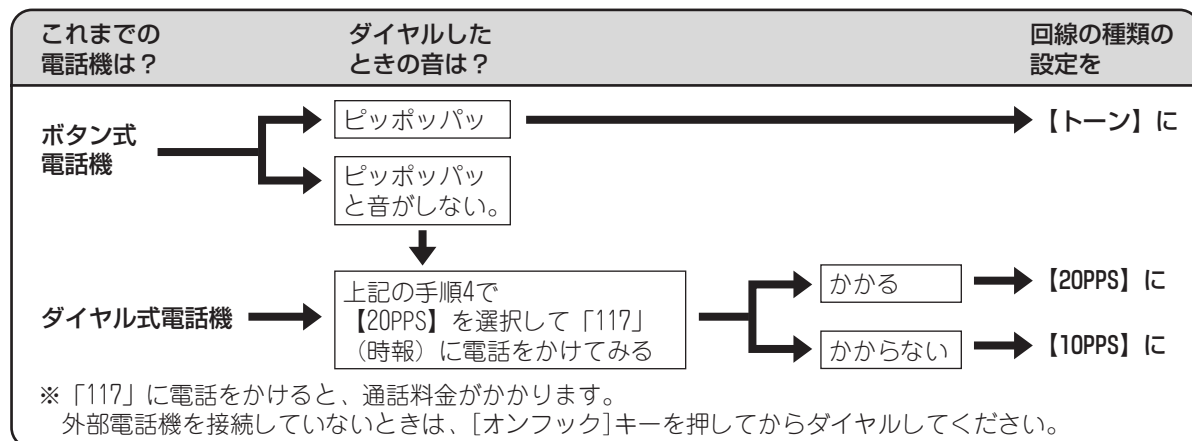
6 **[メニュー]キーを押す**

待機状態に戻ります。

電話回線の種類について

電話回線には、プッシュホン（PB）回線と回転ダイヤル回線（パルス回線）（ダイヤル速度：20PPS／10PPS）があります。現在お使いの回線の種類やダイヤル速度を確認し、回線の種類を合わせてください。

電話回線の種類を確かめるには

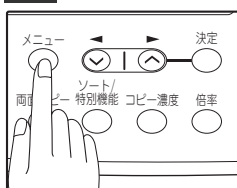
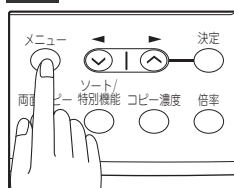
メモ

- 電話回線の設定が合っていないと、電話がかからなかったり、ちがう相手にかかることがあります。
- 電話回線を設定したあとは、むやみに切り替えないでください。

再コール回数を設定する

相手が話し中のときや、通信エラーが発生して送信を失敗したときに、自動的に送信し直す再コール回数を設定できます。(再コールしないように設定することもできます。)

- 設定した回数の再コールが行われても送信できなかった場合は、通信結果表がプリントされ、メモリーに読み込まれた送信データは消去されます。
- 直接送信の場合は再コールされません。

相手が話し中の場合

相手が話し中のときの再コールの回数を選ぶことができます。

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー(⌄)または[►]キー(⌃)で"4:ユーザープログラム"を表示させ、[決定]キーを押す

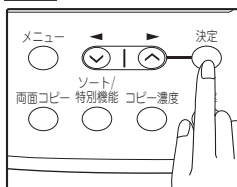
3 [◄]キー(⌄)または[►]キー(⌃)で"7:サイコール カイスウ(ビジー)"を表示させ、[決定]キーを押す

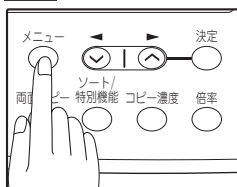
4 数字キーを押して再コール回数を入力する

再コールの回数を"00"～"15"のあいだで入力します。
再コールしないようにする場合は"00"を入力してください。

5 [決定]キーを押す

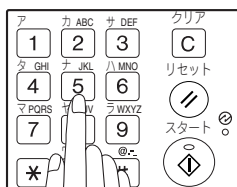
6 [メニュー]キーを押す

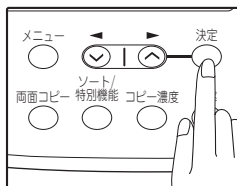
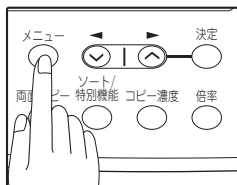
待機状態に戻ります。

通信エラーが発生した場合

通信エラーが発生したときの再コールの回数を選ぶことができます。

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で“4:ユーザープログラム”を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で“8:サイコール カイスウ（エラー）”を表示させ、[決定]キーを押す

4 数字キーを押して再コール回数を入力する

再コールの回数を“00”～“15”のあいだで入力します。
再コールしないようにする場合は“00”を入力してください。

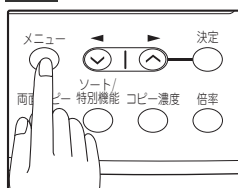
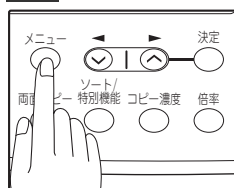
5 [決定]キーを押す

6 [メニュー]キーを押す

待機状態に戻ります。

再コール間隔を設定する

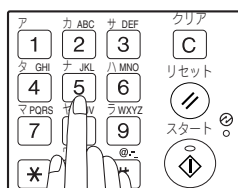
相手が話し中のときや、通信エラーが発生して送信を失敗したときに、自動的に送信し直す再コールの間隔を設定できます。

相手が話し中の場合

相手側が話し中のときに、次に再コールするまでの間隔を1分から15分のあいだ（1分単位）で設定することができます。

1 [メニュー]キーを押す

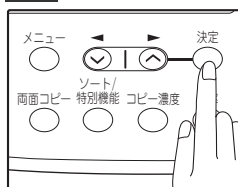
2 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で“4:ユーザープログラム”を表示させ、[決定]キーを押す

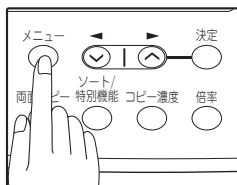
3 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で“9:サイコール カンカク（ビジー）”を表示させ、[決定]キーを押す

4 数字キーを押して再コール間隔を入力する

再コール間隔を“01”～“15”のあいだで入力します。

5 [決定]キーを押す

6 [メニュー]キーを押す

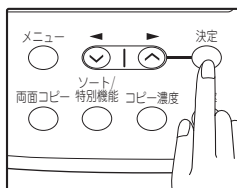
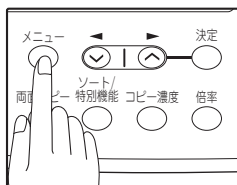
待機状態に戻ります。

通信エラーが発生した場合

通信エラーが発生したときに、次に再コールするまでの間隔を最大15分までのあいだ（1分単位）で設定することができます。

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で“4:ユーザープログラム”を表示させ、[決定]キーを押す

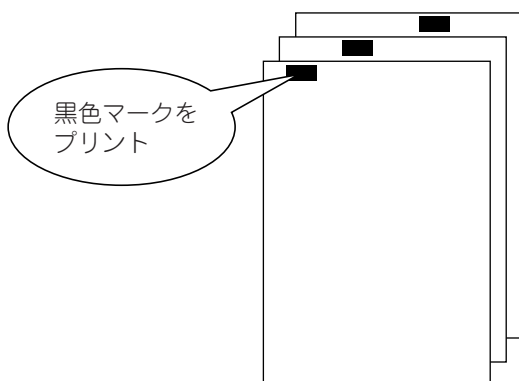
3 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で“10:サイコール カンカク（エラー）”を表示させ、[決定]キーを押す

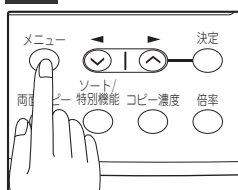
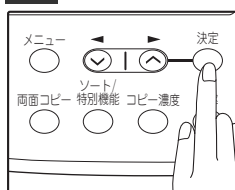
4 数字キーを押して再コール間隔を入力する

再コール間隔を“00”～“15”のあいだで入力します。
送信エラーで回線が切れたあと、即再コールさせる場合は“00”を入力してください。

5 [決定]キーを押す

6 [メニュー]キーを押す

待機状態に戻ります。

インデックス機能を設定する

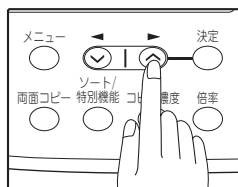
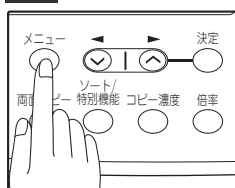
受信した用紙の上部に黒色マーク（インデックス）をプリントすることができます。この黒色マークは1件ごとに用紙の左から右へ移動してプリントされるので、用紙の整理が容易になります。

次の手順でインデックス機能を設定することができます。

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で"4:ユーザープログラム"を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で"19:インデックスプリント セッテイ"を表示させ、[決定]キーを押す

4 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）を押して"1:オン"または"2:オフ"を選択する

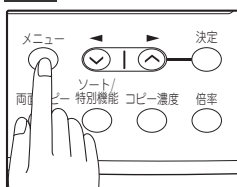
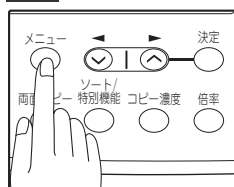
- "1:オン"を選択するとこの機能が有効になります。
- "2:オフ"を選択するとこの機能が無効になります。

5 [決定]キーを押す

6 [メニュー]キーを押す

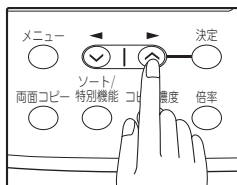
待機状態に戻ります。

発信元印字機能を設定する

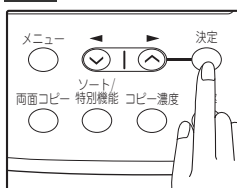
本機は原稿送信時、発信元情報として送信を行った日付・時刻、発信元名、発信元番号、送信ページ番号を付けて相手側に送信します。送信原稿の画像が相手側で出力される際、用紙の上部にこれらの情報が印字されます。送信時に発信元情報を付けないようにするには、次の手順に従って設定してください。

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“4:ユーザープログラム”を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“22:ハッシンモト インジ”を表示させ、[決定]キーを押す

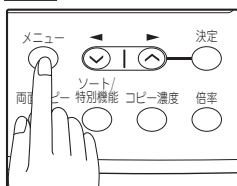
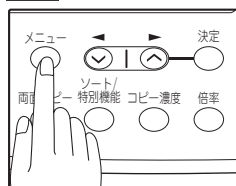
4 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）を押して“1:オン”または“2:オフ”を選択する

- “1: オン”を選択すると、発信元情報を付けて送信します。
- “2: オフ”を選択すると、発信元情報を付けずに送信します。

5 [決定]キーを押す

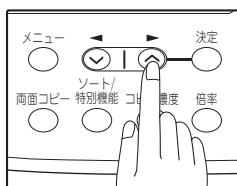
6 [メニュー]キーを押す

待機状態に戻ります。

画質優先設定

ファクス送信時の画質の初期設定を変更できます。最初は“フツウジ”に設定されていますが、この設定を“チイサナジ”または“セイサイ”に変更することができます。変更するときは、次の手順で行ってください。

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で“4:ユーザープログラム”を表示させ、[決定]キーを押す

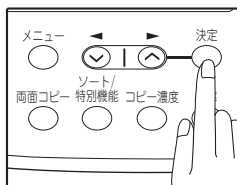
3 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で“3:ガシツ ユウセンセッテイ”を表示させ、[決定]キーを押す

4 [◄]キー（∨）または [►]キー（∧）で送信画質を選択する

次の中から選択します。
1:フツウジ（普通字）
2:チイサナジ（小さな字）
3:セイサイ（精細）

“チイサナジ”および“セイサイ”のチュウカンチョウ（中間調）を画質優先設定として選択することはできません。

5 [決定]キーを押す

6 [メニュー]キーを押す

待機状態に戻ります。

本機と同じ回線でモデムを使用する場合の設定

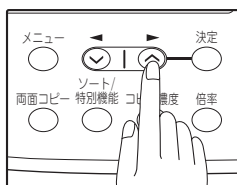
外部電話機で電話を受けたときに受話器からファクス音が聞こえたときは、本機はファクス信号検出機能により、自動的に受信を開始するように設定されていますが、同じ回線でモデムを使用している場合はこの機能をオフにする必要があります。オンに設定していると、本機はコンピュータからの通信を誤って受信しようとします。ファクス信号検出機能をオフにするときは、次の手順で行ってください。

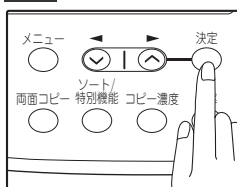
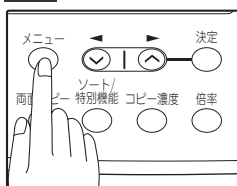
2

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“4:ユーザープログラム”を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“13:FAXシンゴウケンシュツセッテイ”を表示させ、[決定]キーを押す

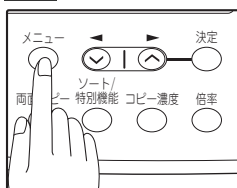
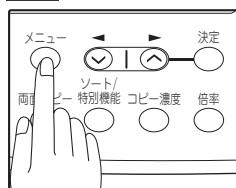
4 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“1:オン”または“2:オフ”を選択する

- “1:オン”を選択するとファクス信号検出機能が有効になります。
- “2:オフ”を選択するとファクス信号検出機能が無効になります。

5 [決定]キーを押す

6 [メニュー]キーを押す

待機状態に戻ります。

リモート切替番号の設定

本機は、外部電話機を使ってファクスを受信することができます。この機能はファクス信号検出機能（31ページ）が無効であっても作動します。ファクス音が聞こえたら、2桁のリモート切替番号（初期設定値：55）を外部電話機の数字キーで入力し、[⁎]キーを1回押すとファクスの受信が始まります。（58ページ「リモート受信」）
リモート切替番号を変更するときは、次の手順で行ってください。

- 本機と同じ回線でモデムを使用していないときで、ファクス信号検出機能が有効に設定されているときは、外部電話機の受話器を取ってファクス音が聞こえてきたら、本機が自動的にファクスを受信します。リモート切替番号を入力する必要はありません。
- リモート受信機能は、ご使用の電話回線の種類がダイヤル回線のときは、外部電話機をトーン信号が出せる状態に切り替えて使用してください。詳しくはお使いの外部電話機の取扱説明書を参照してください。

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で“4:ユーザープログラム”を表示させ、[決定]キーを押す

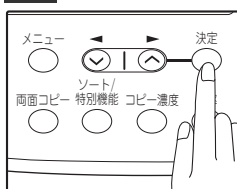
3 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で“12:リモート キリカエ バンゴウ”を表示させ、[決定]キーを押す

4 数字キーでリモート切替番号を入力する

変更するリモート切替番号を“00”～“99”のあいだで入力します。

5 [決定]キーを押す

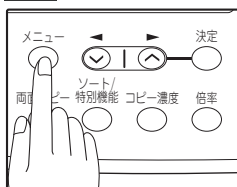
6 [メニュー]キーを押す

待機状態に戻ります。

オートダイヤルを登録する

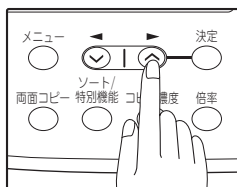
本機は、相手先のファクス番号をあらかじめ登録しておくことで、送信時のダイヤル操作を簡略化できるオートダイヤル機能を備えています。押すだけで相手先にダイヤルすることができるワンタッチキー（ワンタッチダイヤル）と、[短縮/電子電話帳]キーを押して2桁の短縮番号を入力することで相手先へダイヤルできる短縮ダイヤルの2種類のオートダイヤルがあります。
ワンタッチキーは最大18件、短縮ダイヤルは最大100件登録することができます。
オートダイヤルを登録するときは、市外局番から入力してください。

ワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルを登録する

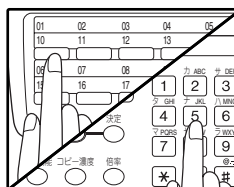
次の手順でワンタッチダイヤルまたは、短縮ダイヤルを登録します。

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“2:トウロク モード”を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“1:ファクス バンゴウ”を表示させ、[決定]キーを押す

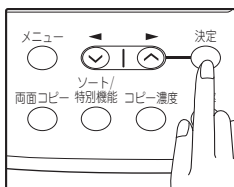
4 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で登録したいオートダイヤルを表示させ、[決定]キーを押す

- ワンタッチダイヤルを登録する場合は、“1:ワンタッチ ダイヤル”を選択します。
- 短縮ダイヤルを登録する場合は、“2:タンシュクダイヤル”を選択します。

5 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“1:トウロク”を選択し、[決定]キーを押す

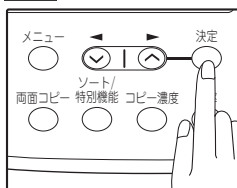
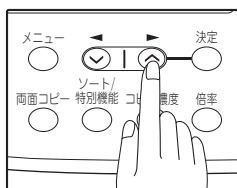
6 登録するワンタッチキー／短縮ダイヤル番号を入力する

- ワンタッチダイヤルを登録する場合は、ワンタッチキー（01～18）を押します。
  [10]～[18]を選択するときは、[シフト]キーを押してランプが点灯している状態で押します。
- 短縮ダイヤルを登録する場合は、2桁の短縮ダイヤル番号（00～99）を数字キーで入力し、[決定]キーを押します。

7 数字キーでファクス番号を入力する

ファクス番号を40桁以内（ポーズを含む）で入力してください。

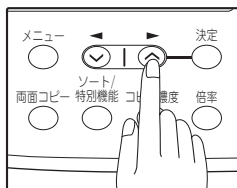
8 [決定]キーを押す

9 数字キーで相手先名を登録する

相手先の場所や名前などを20文字以内で入力してください。文字入力のしかたは「文字入力のしかた」(14ページ）を参照してください。名前を入力しない場合、この手順は省略できます。

10 [決定]キーを押す

11 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）でチェーンダイヤル設定を選択する

チェーンダイヤル（53ページ）に使用する番号として登録する場合は“1:スル”を、しない場合は“2:シナイ”を選択します。

チェーンダイヤルとして設定すると、通信速度や国際通信モードは設定できません。
〔決定〕キーを押して手順17へお進みください。

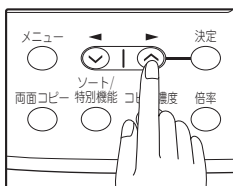
12 [決定]キーを押す

13 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で通信速度を選択する

次の中から選択します。
1:33600bps
2:14400bps
3:9600bps
4:4800bps

メモ

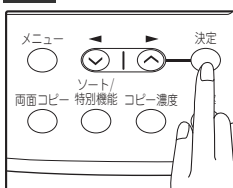
海外への通信など、通信回線の回線事情が悪く、あらかじめどの通信速度が最適かわかっているときは、通信速度の設定を変更してください。回線事情が不明のときは、通信速度の設定は変更しないでください。

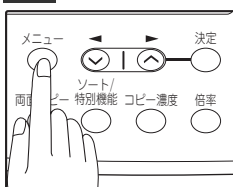
14 [決定]キーを押す

15 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で国際通信モードを選択する

次の中から選択します。
1:シテイナシ（指定なし）
2:モード 1
3:モード 2
4:モード 3

メモ

- 海外へファクスを送信するときは、回線の状態によって画像が乱れたり、通信が中断してしまうことがあります。国際通信モードを正しく設定すると、そのような通信障害を軽減することができます。
- 海外への通信でエラーがよく起こる場合は、モード1〜3をそれぞれ試してみて、正常に通信できるモードを設定してください。

16 [決定]キーを押す

手順5に戻ります。
他のファクス番号を登録するときは、くり返し同様の操作を行ってください。

17 [メニュー]キーを押す

待機状態に戻ります。
ワンタッチキーを登録したときは、ワンタッチキーの上のラベルに名前を書いておくことをお勧めします。

メモ

- 海外のファクス番号を登録するときなど、アクセス番号（001など）を入力したあと、〔再ダイヤル/ポーズ〕キーを押してから電話番号を入力してください。〔再ダイヤル/ポーズ〕キーを1回押すと、約2秒間の待ち時間ができます。
- ファクス番号の登録にはポーズやトーン（*）を入れることもできますが、構内交換機（PBX）から0発信する場合や、海外のファクス番号を登録する以外でポーズを入力すると正しく電話がかからないことがあります。

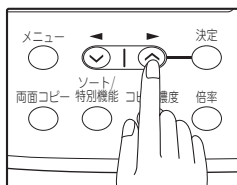
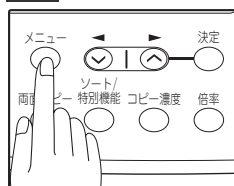
ワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルを消去する

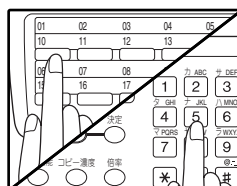
次の手順でワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルを消去できます。

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“2:トウロク モード”を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“1:ファクス バンゴウ”を表示させ、[決定]キーを押す

4 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で消去したいオートダイヤルを選択する

- ワンタッチダイヤルを消去する場合は、“1:ワンタッチ ダイヤル”を選択します。
- 短縮ダイヤルを消去する場合は、“2:タンシュク ダイヤル”を選択します。

5 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“2:ショウキョ”を選択し、[決定]キーを押す

6 消去するワンタッチキー／短縮ダイヤル番号を入力する

- ワンタッチダイヤルを消去する場合は、消去するワンタッチキー（01～18）を押します。
  [10]～[18]を選択するときは、[シフト]キーを押してランプが点灯している状態で押します。
- 短縮ダイヤルを消去する場合は、消去する短縮ダイヤルの番号（00～99）を数字キーで入力し、[決定]キーを押します。

7 [決定]キーを押す

手順5に戻ります。続けてワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルを消去するときは、くり返し同様の操作を行ってください。

8 [メニュー]キーを押す

待機状態に戻ります。

> メモ
> 次の場合はワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルの消去はできません。
> - グループダイヤル（36ページ）に登録されている場合
> - ワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルを使って、送信中または送信予約されている場合

2

グループダイヤルを登録する

グループダイヤルを使用すると、一度の操作で複数の相手に送信できます。この機能は原稿を複数の相手に送信する順次同報送信を行うときに便利です。

グループダイヤルは、ワンタッチキーに登録します。グループダイヤルを登録、消去するには以下の手順に従ってください。（1つのワンタッチキーにワンタッチダイヤルとグループダイヤルの両方を同時に登録することはできません。）

- グループダイヤルには最大100局の相手先を登録できます。
- ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤル、数字キーで入力したファクス番号をグループダイヤルとして１つのワンタッチキーに登録することができます。
- 一度登録したグループダイヤルにファクス番号を追加することもできます。

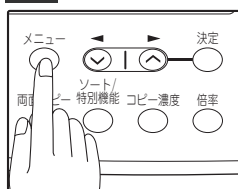
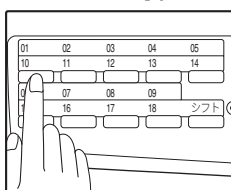
グループダイヤルに登録・追加する

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“2:トウロク モード”を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“1:ファクス バンゴウ”を表示させ、[決定]キーを押す

4 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“3:グループ ダイヤル”を表示させ、[決定]キーを押す

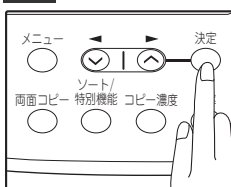
5 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“1:トウロク”を選択し、[決定]キーを押す

6 グループキーとして使用するワンタッチキーを押す

すでに登録されたグループキーにファクス番号を追加するときは、グループキーを押したあと[◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“1:スル”を選択し、[決定]キーを押してください。

7 グループダイヤルに登録するファクス番号を入力する

次の方法でファクス番号を登録してください。

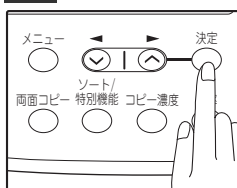
- 登録したいワンタッチダイヤルのワンタッチキーを押して[決定]キーを押す
- [短縮/電子電話帳]キーを押したうえ、登録したい短縮ダイヤルの番号を数字キーで入力して[決定]キーを押す
- 数字キーでファクス番号を入力して[決定]キーを押す

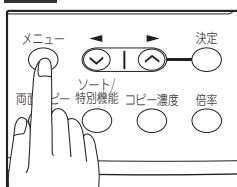
１つのグループダイヤルに別のグループダイヤルを登録することはできません。

8 [決定]キーを押す

9 数字キーでグループダイヤル名を登録する

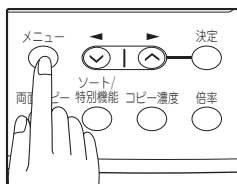
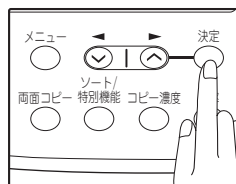
数字キーでグループダイヤル名を20文字以内で入力してください。文字入力のしかたは「文字入力のしかた」（14ページ）を参照してください。名前を入力しない場合、この手順は省略できます。

すでに登録されたグループキーにファクス番号を追加したときは、登録されたグループダイヤル名が表示されます。必要に応じて変更してください。

10 [決定]キーを押す

手順6に戻ります。続けてグループダイヤルを登録するときは、くり返し同様の操作を行ってください。

11 [メニュー]キーを押す

待機状態に戻ります。

次の手順でグループダイヤルから不要なファクス番号を削除したり、グループダイヤルを消去することができます。

1 **[メニュー]キーを押す**

2 **[◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で"2:トウロク モード"を表示させ、[決定]キーを押す**

3 **[◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で"1:ファクス バンゴウ"を表示させ、[決定]キーを押す**

4 **[◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で"3:グループ ダイヤル"を表示させ、[決定]キーを押す**

5 **[◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で"2:ショウキョ"を選択し、[決定]キーを押す**

6 **削除するグループダイヤルのワンタッチキーを押す**

7 **[◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で"1:アイテサキ"を選択し、[決定]キーを押す**

グループダイヤルから全ての番号を消去する場合は、"2:グループ"を選択して[決定]キーを押し、手順10に進んでください。([決定]キーを押すと消去が実行されますのでご注意ください。)

8 **削除する番号を入力する**

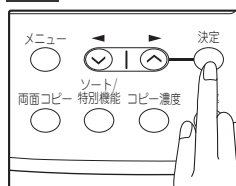
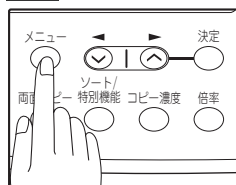
次の方法で削除するファクス番号を入力してください。

- ワンタッチキーを押す
- [短縮/電子電話帳]キーを押したうえ、数字キーで短縮ダイヤル番号を入力する
- 数字キーでファクス番号を入力する

9 **[決定]キーを押す**

10 **終了するには[◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で[2:シュウリョウ]を選択する**

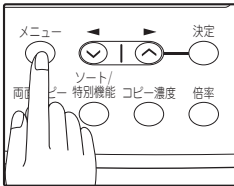
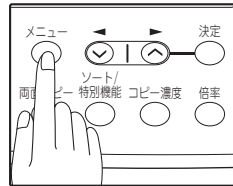
続けて別のグループダイヤルを削除する場合は、"1:ケイゾク"を選択して[決定]キーを押してください。手順8に戻ります。

11 **[決定]キーを押す**

12 **[メニュー]キーを押す**

待機状態に戻ります。

外部電話機を接続する

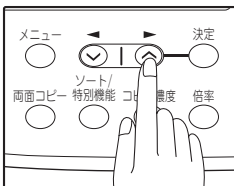
本機に電話機や留守番電話機を接続したときは、次の手順で設定を行ってください。

次の機能は外部電話機を接続しないと利用できません。
- TEL/FAX自動切替（40ページ）
- ダイヤルイン（42ページ）

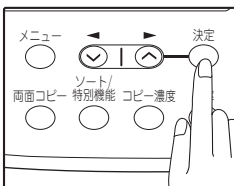
1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“4:ユーザープログラム”を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“23:ガイブデンワ セツゾク”を表示させ、[決定]キーを押す

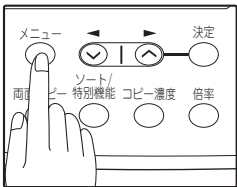
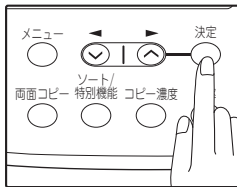
4 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）を押して“1:オン”または“2:オフ”を選択する

“1:オン”を選択するとこの機能が有効になります。

5 [決定]キーを押す

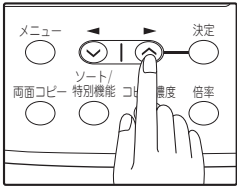
6 [メニュー]キーを押す

待機状態に戻ります。

電話とファクスを自動的に切り替えて使用する

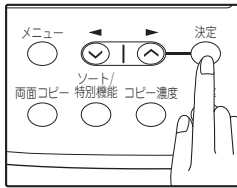
自動受信モード（20ページ）で、電話とファクスを自動的に切り替えるように設定することができます。次の手順で自動切替を行うように設定しておいてください。ダイヤルイン（42ページ）を利用しているときやFネット（87ページ）による受信では、この機能は使用できません。

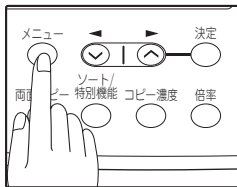
1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で“4:ユーザープログラム”を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で“24:TEL/FAX ジドウキリカエ”を表示させ、[決定]キーを押す

4 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）を押して“1:オン”または“2:オフ”を選択する

“1:オン”を選択するとこの機能が有効になります。

5 [決定]キーを押す

6 数字キーで呼び出し回数を入力し、[決定]キーを押す

相手が電話をかけてきたとき、またはファクスを手動送信してきたときの呼び出し回数を01～15のあいだで設定します。
受話器を上げるまで呼出音を鳴り続けるようにする場合は、00を設定してください。

7 [メニュー]キーを押す

待機状態に戻ります。

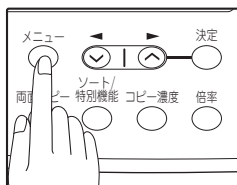
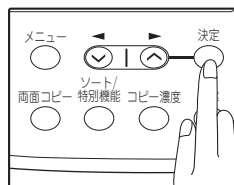
TEL/FAX自動切替に設定したときは

TEL/FAX自動切替を設定すると、相手の電話やファクスの送信方法によって本機の対応が以下のように変わります。

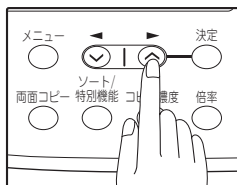
相手側	こちら側
ファクスを自動送信したとき	呼出音が鳴ってから自動的に受信を開始します。（自動受信：20ページ）
電話をかけたときまたはファクスを手動送信したとき	**呼出音が鳴っている間に受話器を上げると** 相手と通話ができます。通話後にファクスを受信する場合は、手動受信操作（20ページ「手動受信」参照）を行います。
	呼出音が鳴っている間に受話器を上げなかった場合 相手がファクス送信のときは、相手側で送信操作を行うと受信を開始します。

留守番電話機のバックアップ

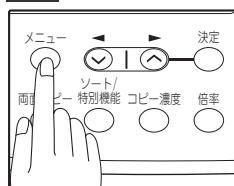
お使いの留守番電話機のテープがいっぱいになったり、機械自体が故障するときがあります。このような状態でも、自動受信機能をオンにするとファクスを受信することができます。本機は呼出音が6回なったあと、自動的に全ての呼び出しに応答します。この機能を使用するには、次の手順を行ってください。

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“6:ルスバン デンワ セッテイ”を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“1:ジドウ ジュシン キリカエ”を表示させ、[決定]キーを押す

4 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“1:オン”または“2:オフ”を選択する

- “1: オン”を選択すると、機能が有効になります。
- “2: オフ”を選択すると、機能が無効になります。

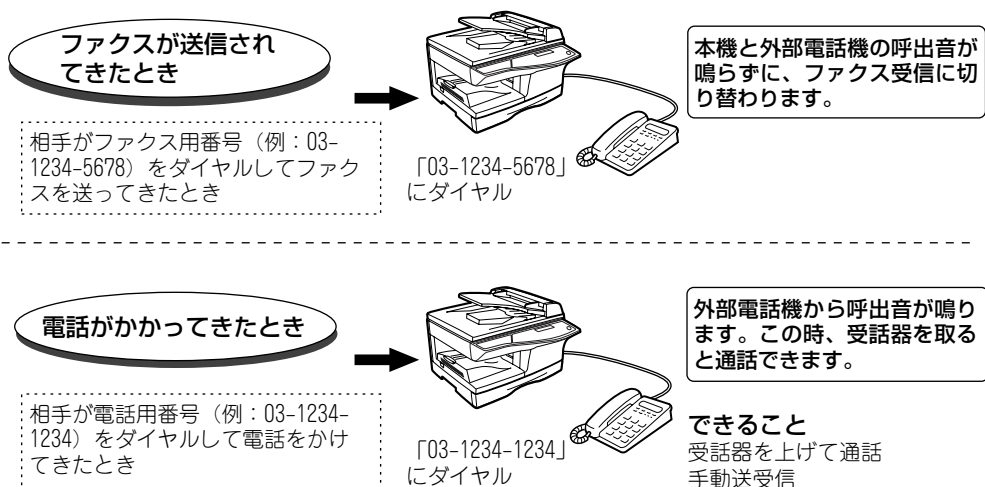
5 [決定]キーを押す

6 [メニュー]キーを押す

待機状態に戻ります。

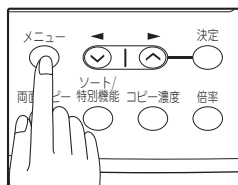
自動受信に設定しているときは、留守番電話機が応答するまでの呼出音の回数が5回以下に設定されていることを確認してください。6回以上に設定されていると、本機がすべての呼び出しに応答してしまうため、伝言メッセージを受け取ることができません。

2

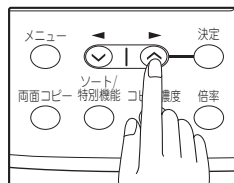
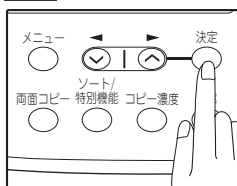
ダイヤルインサービスを利用するときは

NTTのダイヤルインサービス（有料）を契約すると、1つの電話回線でファクス番号と電話番号の2つを設定することができます。ダイヤルインサービスはNTTとの契約が必要です。このサービスを受けられない局番（地域）もありますので、詳しくはNTT窓口にご相談ください。
モデムダイヤルインサービスはご利用になれません。ダイヤルインサービスをご契約ください。

ダイヤルインを使用するときは、次の手順で設定を行ってください。設定を行っていないときは、ダイヤルインサービスを契約していても、この機能ははたらきません。

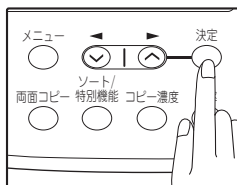
- 接続した外部電話機の種類によっては,呼出音を鳴らさずにファクス受信するように設定していても呼出音が短く鳴ることがあります。
- ダイヤルインを使用しているときは、TEL/FAX自動切替（40ページ）は利用できません。
- 本機がファクス受信できない状態のときは、すべて電話着信になります。
- 1つの電話回線ですからファクス送受信と同時に電話をかけたり受けたりすることはできません。
- ダイヤルイン機能を利用する場合は、NTT の各種サービスがご利用になれない場合や、一部制約を受けることがあります。詳しくは、お近くのNTTにお問い合わせください。

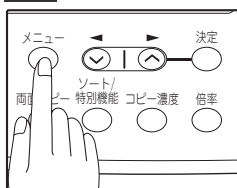
1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“4:ユーザープログラム”を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“25:ダイヤル イン セッテイ”を表示させ、[決定]キーを押す

4 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）を押して“1:オン”または“2:オフ”を選択する

“1:オン”を選択するとこの機能が有効になります。

5 [決定]キーを押す

ディスプレイに“ガイブデンワ ガ オフデス サイセッテイクダサイ”と表示されたときは外部電話接続の設定（39ページ手順4）を“1:オン”に選択し直したうえで、再度ダイヤルイン設定の操作をやり直してください。

6 数字キーでダイヤルイン番号（4桁）を入力し、[決定]キーを押す

4桁のダイヤルイン番号はNTTのダイヤルインサービスで与えられた番号を入力してください。

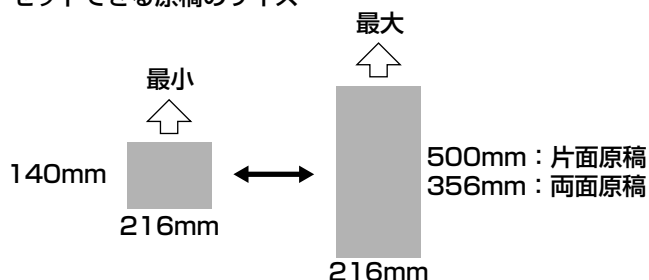
7 [メニュー]キーを押す

待機状態に戻ります。

送信できる原稿について

送信したい原稿が仕様に合っているか確認してください。

サイズと質量

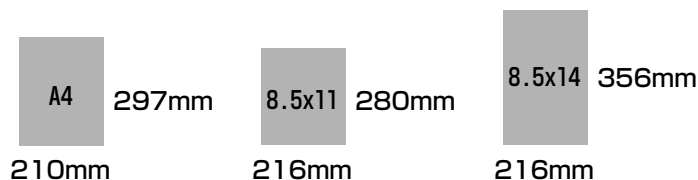
両面原稿自動送り装置にセットできる原稿のサイズと質量（厚さ）は、セットする原稿の枚数によって異なります。

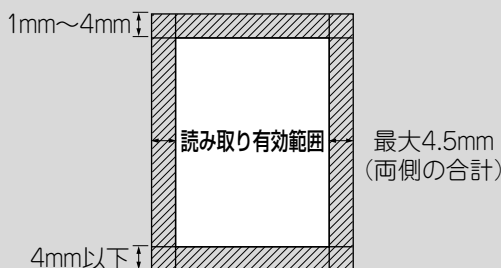
両面原稿自動送り装置を使うとき

※矢印（⇧）は原稿の給紙方向を表しています。

- 長尺原稿を給紙する場合、原稿の両端を持ち、原稿ガイドにそってセットしてください。
- 両面原稿自動送り装置で使用できる原稿には制限があります。詳しくは取扱説明書（共通編）「基本的なコピーのとりかた」を参照してください。

原稿台（ガラス面）を使うとき

セットできる原稿のサイズ：次の3種類のサイズの原稿をセットできます。

メモ

原稿を送信する場合、原稿の端部に読み取れない領域がありますのでご注意ください。この領域にある文字や画像は送信できません。

1mm～4mm
読み取り有効範囲
最大4.5mm
（両側の合計）
4mm以下

4 ファクス機能の使いかた

本機のファクス機能は、画質、受信モードの設定や、順次同報、ポーリングなどいろいろな機能を備えています。また、原稿をメモリーに読み込んでから送信したり、受信したファクスをメモリーに記憶することができます。

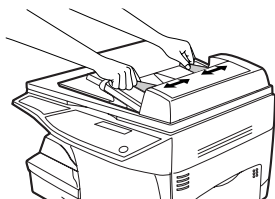
送信のしかた

原稿をセットする

両面原稿自動送り装置または原稿台（ガラス面）に原稿をセットしたあと、以下の操作を行います。

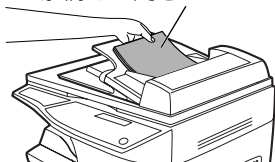
両面原稿自動送り装置を使うとき

1 **原稿が原稿台（ガラス面）に残っておらず、コピー中でないことを確認し、両面原稿自動送り装置を閉じる**

2 **原稿セット台の原稿ガイドを原稿サイズに合わせる**

3 **送信したい面を上向きにして原稿セット台に原稿をセットする**

原稿の上端が右側になるようにセットしてください。

原稿を一度に最大30枚※までセットできます。

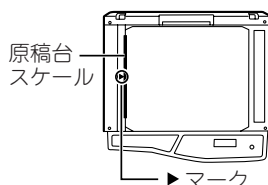
※厚みが52g/m2～90g/m2紙の原稿の場合

4 **次のどちらかの方法でファクスを送信する**

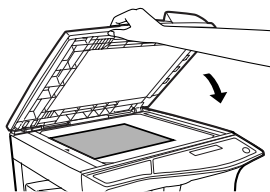
- 原稿を本機のメモリーに読み込んで送信するときは、メモリーランプが点灯していることを確認し、「ダイヤルのしかた」（52ページ）にお進みください。
- 原稿を本機のメモリーに読み込まずに送信するときは、［メモリー］キーを押してメモリーランプを消灯させ、「ダイヤルのしかた」（52ページ）にお進みください。

原稿台（ガラス面）を使うとき

1 両面原稿自動送り装置に原稿が残っていないことを確認してから開く

2 原稿台（ガラス面）に原稿を下向きにしてセットする

原稿台スケールのサイズに合わせてセットしてください。（▶マークに原稿端辺の中心を合わせてください。）

メモ 原稿台（ガラス面）を使う場合は、両面原稿自動送り装置に原稿をセットしないでください。

3 両面原稿自動送り装置を静かに閉じる

4 必要に応じて送信原稿サイズ（47ページ）、画質（48ページ）、濃度（48ページ）を設定し、「ダイヤルのしかた」（52ページ）を参照して送信相手先のファクス番号を入力する

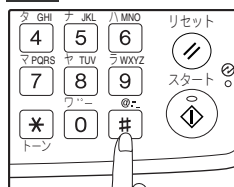
5 [スタート]キー（ ）を押す

設定された原稿サイズがディスプレイに表示され、原稿が読み込まれます。

メモ [スタート]キー（ ）を押したあと設定された原稿サイズが画面に表示されます。
表示されたサイズが、セットした原稿のサイズと同じであることを確認してください。（工場出荷時、原稿サイズはA4に設定されています。）表示されたサイズと異なるサイズの原稿をセットしたときは、[リセット]キー（ ）を押して操作を中止し、「原稿サイズの設定（原稿台（ガラス面）を使うとき）」（47ページ）を参照して原稿サイズを変更してください。
原稿台（ガラス面）から送信するとき、原稿サイズが規定サイズと異なる場合は原稿の一部が欠ける場合があります。

6 複数の原稿をメモリーに読み込ませる場合は、原稿を入れ替えて[スタート]キー（ ）を押す

すべての原稿を読み込むまでこの操作をくり返します。最後のページの読み込みが終了したら手順7に進んでください。

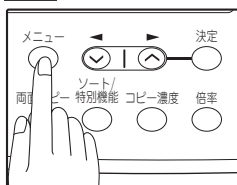
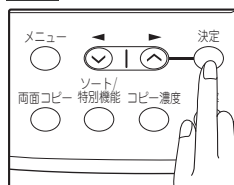
7 [#]キーを押す

送信が始まります。

送信の設定

送信を行う前に、さまざまな送信機能を設定することができます。

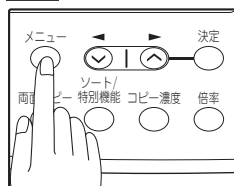
原稿サイズの設定（原稿台（ガラス面）を使うとき）

原稿台（ガラス面）を使って送信する（46ページ）場合、セットできる原稿サイズは、A4、8.5"x11"、8.5"x14"の3種類です。送信の前に以下の手順で、原稿台（ガラス面）にセットした原稿のサイズを指定してください。この設定は、設定した送信に限り有効です。
すべての送信に対して設定した原稿サイズを有効にすることもできます。

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“4:ユーザープログラム”を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“1:ゲンコウダイサイズ”を表示させ、[決定]キーを押す

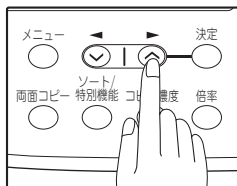
全ての送信に対して同じ原稿サイズを使用する場合は、[◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“2:ゲンコウダイサイズ コテイ”を表示させ、[決定]キーを押します。

メモ
ある送信に対して一時的に原稿サイズを変更するときは、“1:ゲンコウダイサイズ”を選択します。すべての送信に対して同じ原稿サイズを適用するときは、“2:ゲンコウダイサイズ コテイ”を選択します。

4 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で原稿サイズを選択する

次の中から選択します。
1: A4
2: 8.5x11（8-1/2"x11"）
3: 8.5x14（8-1/2"x14"）

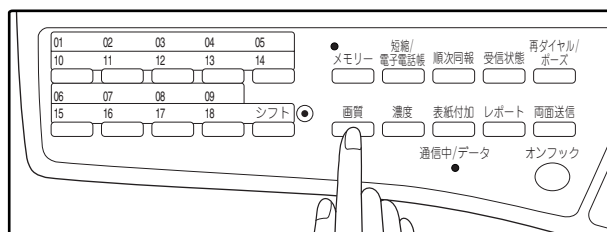
5 [決定]キーを押す

6 [メニュー]キーを押す

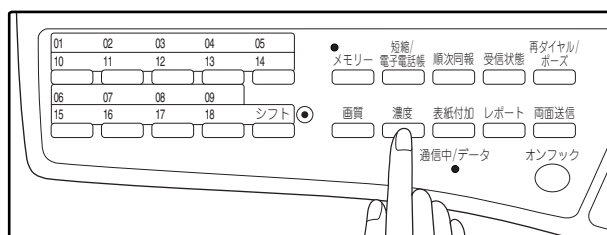
設定を終了します。

画質の設定

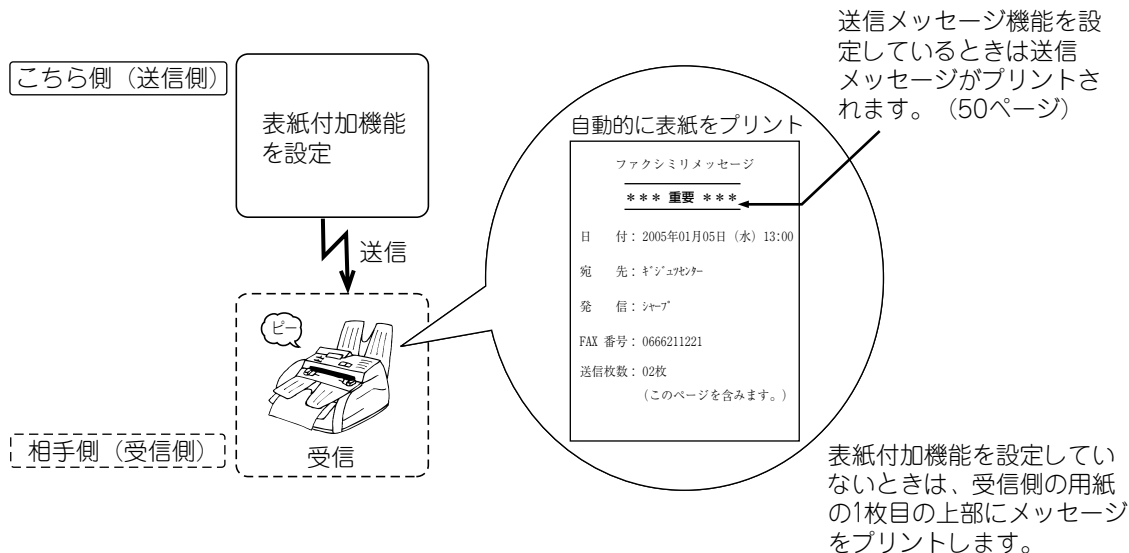
[画質]キーを押すごとに画質が切り替わり、ディスプレイに表示されます。目的の画質をディスプレイに表示させ、[決定]キーを押すと適用されます。

画質は次の中から選択できます。
- フツウジ（普通字）
  通常の大きさの文字（この取扱説明書程度）の原稿の場合に選択します。
- チイサナジ（小さな字）
  小さな文字や細かな図が描かれている原稿の場合に選択します。
- セイサイ（精細）
  複雑な絵やイラストなどを含む原稿の場合に選択します。“チイサナジ”よりもきれいな画質で送信できます。
- チイサナジ（チュウカンチョウ）（小さな字（中間調））
  写真や濃淡のある原稿（カラーの原稿など）の場合に選択します。“チイサナジ”単独よりもさらに鮮明に送信することができます。
- セイサイ（チュウカンチョウ）（精細（中間調））
  写真や濃淡のある原稿（カラーの原稿など）の場合に選択します。“セイサイ”単独よりもさらに鮮明に送信することができます。

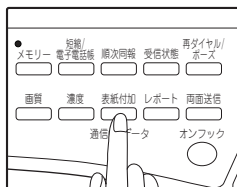
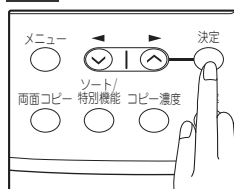
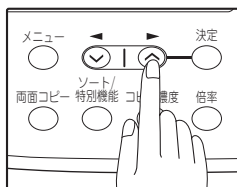
“チイサナジ”または“セイサイ”で送信しても、受信側のファクスの機種によって画質が低下することがあります。
“（チュウカンチョウ）”を選択すると“チイサナジ”および“セイサイ”よりも送信時間が長くなります。
送信時に画質を変更しない場合は、「画質優先設定」（30ページ）で設定した画質が自動的に選択されます。

Fネット（87ページ）を利用して送信する場合、画質選択に制限があります。詳しくは、Fネットのパンフレットを参照してください。

濃度の設定

濃度の設定は自動的に行われますが、手動で行うこともできます。[濃度]キーを押すごとに濃度が切り替わります。希望の濃度をディスプレイに表示させて[決定]キーで選択します。“フツウ”、“コク”、“ウスク”の3段階から選択できます。

表紙付加機能

自動的に日付・時刻・宛先・発信者・送信枚数をプリントしたA4サイズの表紙を付けて送信することができます。また、相手先へのメッセージを付けて送信することができます。メッセージは、5種類の中から1つ選択できます。

- 送信先の名前を表紙に印字したいときは、送信先の名前をワンタッチダイヤルか短縮ダイヤルに登録しておく必要があります。
- この機能は送信前に設定します。一度の設定で1回の送信のみ有効です。一度送信を行うと送信付加機能は自動的に解除されます。
- 送信メッセージを表紙に加える場合は、「送信メッセージ機能」（50ページ）を参照してメッセージを選択してください。

送信時に表紙を付加するときは、次の手順で行ってください。

1 [表紙付加]キーを押して“1:ヒョウシ　フカ セッテイ”を表示させ、[決定]キーを押す

2 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“1:オン”または“2:オフ”のいずれかを選択する

- “1:オン”を選択するとこの機能が有効になります。
- “2:オフ”を選択するとこの機能が無効になります。

3 [決定]キーを押す

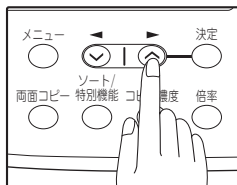
送信メッセージ機能

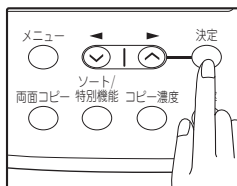
送信メッセージは、"ゴクヒ"(極秘)、"カイラン"(回覧)、"シキュウ"(至急)、"オデンワ クダサイ"(お電話下さい)、"ジュウヨウ"(重要)から選択できます。

メモ　表紙付加機能(49ページ)が設定されていない状態で送信メッセージを選択した場合、1枚目の上部にメッセージが付加されます。

送信メッセージを付加するときは、次の操作を行います。

1 [表紙付加]キーを2回押して"2:ソウシン メッセージ セッテイ"を表示させ、[決定]キーを押す

2 [◄]キー(⌄)または[►]キー(⌃)でメッセージを選択する

次の中から選択します。
1:ナシ
2:ゴクヒ(極秘)
3:カイラン(回覧)
4:シキュウ(至急)
5:オデンワ クダサイ(お電話下さい)
6:ジュウヨウ(重要)
メッセージを付けないときは、"1:ナシ"を選択してください。

3 [決定]キーを押す

両面原稿送信機能

両面原稿自動送り装置を使用して、両面原稿を自動的に送信することができます。原稿の裏面を180°回転させて送信することもできます。

- 両面原稿送信機能を使用するときは、原稿は必ず両面原稿自動送り装置にセットしてください。この機能は原稿台（ガラス面）では使用できません。
- 直接送信モードが選択されているときは、両面原稿送信機能は使用できません。また、両面原稿送信機能が選択されているときは、直接送信モードで送信できません。

次の手順に従って両面原稿を送信してください。

1 原稿セット台に原稿をセットする（45ページ）

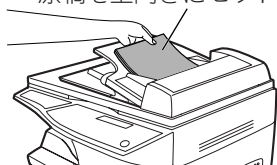
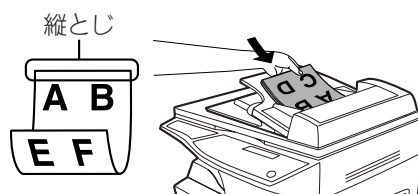
両面原稿送信機能で読み込みが可能な原稿のサイズと質量に関しては､44ページを参照してください。

2 ［両面送信］キーを押して適切な設定を選択する

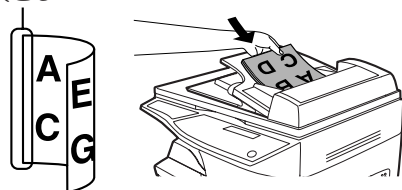
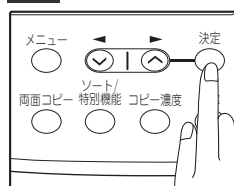
次の中から選択します。

- オフ
- オン（カイテン オン）
- オン（カイテン オフ）

原稿タイプ（横とじまたは縦とじ）は正しく設定してください。設定をまちがえると、受信ファクスが1枚ごとに逆向きでプリントされます。

横とじの両面原稿を送信するときは、“オン（カイテン オン）”を選択してください。

縦とじの両面原稿を送信するときは、“オン（カイテン オフ）”を選択してください。

すでに両面原稿送信機能が設定されている場合に、この機能を解除するときは“オフ”を選択します。

3 [決定]キーを押す

4

ダイヤルのしかた

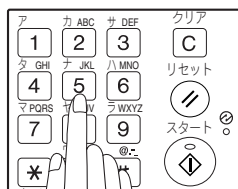
両面原稿自動送り装置または原稿台（ガラス面）に原稿をセットし、必要な設定を行ったあと相手先のファクス番号をダイヤルすると送信準備が整います。ダイヤルの方法は次の中から選ぶことができます。

数字キーを使ってダイヤルする

ワンタッチダイヤルまたは短縮ダイヤルに登録されていない相手先番号をダイヤルする場合は、次の手順で番号を入力してください。

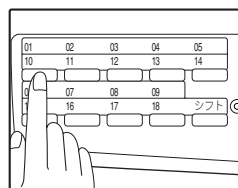
1 両面原稿自動送り装置または原稿台（ガラス面）に原稿が正しくセットされているか確認する

原稿のセットのしかたについては、「原稿をセットする」（45ページ）を参照してください。

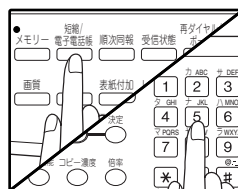
2 数字キーで相手先のファクス番号を入力する

入力をまちがえたときは、[クリア]キー（C）を押すと1文字ずつ消去されます。

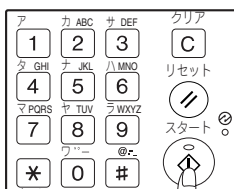
3 相手先の番号が正しく入力されているかディスプレイで確認し、[スタート]キー（◇）を押す

ワンタッチキーでダイヤルする

相手先のファクス番号をワンタッチキーに登録しておくと（33ページ「オートダイヤルを登録する」参照）、目的の送信相手先のワンタッチキーを押すだけでダイヤルすることができます。

短縮ダイヤルでダイヤルする

相手先のファクス番号を短縮ダイヤルに登録しておくと（33ページ「オートダイヤルを登録する」参照）、次の方法で簡単にダイヤルすることができます。

1 [短縮/電子電話帳]キーを押し、数字キーで目的の送信相手先の2桁の短縮番号を入力する

入力をまちがえたときは、[クリア]キー（C）を押すと1文字ずつ消去されます。

2 [スタート]キー（◇）を押し、ディスプレイに表示された相手先名または番号を確認する

チェーンダイヤルについて

市外電話や国際電話などの長い電話番号の場合、番号を市外局番や国番号で区切って別々のワンタッチダイヤル（または短縮ダイヤル）に登録しておき、送信時にこれらの番号をつなげて（最大50桁）ダイヤルすることができます。この方法をチェーンダイヤルと呼びます。
1つのワンタッチダイヤル（または短縮ダイヤル）に電話番号すべてを登録できますが（最大40桁）、例えば海外へファクスを送信するとき、同じ国に複数の送信先が存在する場合は、国番号までをワンタッチダイヤル（または短縮ダイヤル）に登録しておくと共用できるため、別のワンタッチダイヤル（または短縮ダイヤル）には相手先の国内番号のみを登録すればよいので登録時の番号入力操作を簡略化できます。
チェーンダイヤルは、ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤル、数字キーでの入力を組み合わせることができます。（短縮ダイヤル番号を入力したあとは[決定]キーを押してください。また、数字キーで入力したあとにワンタッチキーまたは短縮ダイヤルを続けるときは、［再ダイヤル/ポーズ]キーを押してください。）

例：海外にファクスを送信するとき、ワンタッチキー [01]に国際電話サービス会社の識別番号※、短縮ダイヤル[00]に国番号、ワンタッチキー [02]に国内番号を登録してある場合で、国番号の前に入力する必要のある国際プレフィックス番号（010）を数字キーで入力する場合

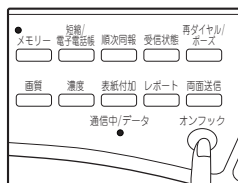
4

の順に入力すると、自動的に送信が始まります。（最後の番号を数字キーで入力した場合は、［スタート]キー（ ）を押すと送信が始まります。）
※マイライン、マイラインプラスに登録している国際電話サービス会社を利用する場合は不要です。

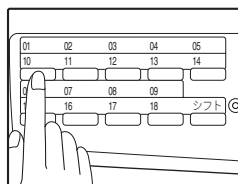
- ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルをチェーンダイヤルとして使用する場合は、登録時にチェーンダイヤルの設定を行ってください。（34ページ手順11参照）ただし、最後に入力するワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルには、チェーンダイヤルの設定を行わないでください。
- 国際通信モード（34ページ手順15参照）を適用して海外にファクスを送信したいときにチェーンダイヤルを使用する場合は、最後に入力したダイヤルに設定されている国際通信モードが有効になります。最後に入力するオートダイヤルに国際通信モードが設定されていないときや、最後の番号を数字キーで入力したときは、国際通信モードを適用して送信することはできません。
- F ネット（87 ページ）を利用するときは、ファクス番号の前に「161」をダイヤルします。詳しくはF ネットのパンフレットを参照してください。

[オンフック]キーを使用してダイヤルする

[オンフック]キーを使ってダイヤルするときは、[オンフック]キーを押し、数字キーでダイヤルしてください。本機のスピーカーから相手機の通信音が聞こえるので、相手側の応答が確認できます。

1 原稿を両面原稿自動送り装置または原稿台ガラス面にセットし、[オンフック]キーを押す（45ページ）

スピーカーの音量は、[◀]キー（⌄）または[▶]キー（⌃）を押して調節できます。

2 相手先のファクス番号をダイヤルする

数字キーでダイヤルするときは、「数字キーを使ってダイヤルする」（52ページ）を参照してください。

ワンタッチキーでダイヤルするときは、「ワンタッチキーでダイヤルする」（52ページ）を参照してください。

短縮ダイヤルでダイヤルするときは、「短縮ダイヤルでダイヤルする」（52ページ）を参照してください。

3 相手側のファクス受信音が聞こえたら、[スタート]キー（⊕）を押す

4 [◀]キー（⌄）または[▶]キー（⌃）で“1:ソウシン”を選択し、[決定]キーまたは[スタート]キー（⊕）を押す

「外部電話接続」のユーザープログラム（39ページ）が、オフに設定されていて、原稿を両面原稿自動送り装置にセットしている場合、この操作はありません。（手順3の操作を行うと、送信が始まります。）

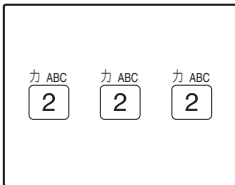
オートダイヤルを検索してダイヤルする（電子電話帳）

あらかじめ登録したワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルの番号を忘れてしまったときは、次の手順で番号を検索することができます。

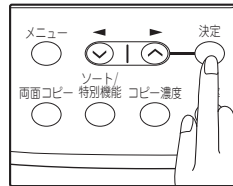
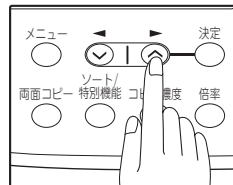
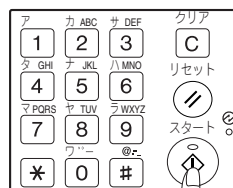
1 **両面原稿自動送り装置または原稿台（ガラス面）に原稿が正しくセットされているか確認する**

原稿のセットのしかたについては、「原稿をセットする」（45ページ）を参照してください。

2 **[短縮/電子電話帳]キーを2回押す**

3 **登録されている相手先名の頭文字を数字キーで入力する**

文字入力のしかたについては、「文字入力のしかた」（14ページ）を参照してください。

頭文字を忘れたときは、手順4にお進みください。

4 **[決定]キーを押す**

5 **[◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）を押して名前をスクロールさせ、目的の相手先名をディスプレイに表示させる**

6 **[スタート]キー（◈）を押す**

相手先につながると、原稿は自動的に送信されます。

再ダイヤル

次の手順で[再ダイヤル/ポーズ]キーを使うと、最後にダイヤルした番号にファクスを送信することができます。

1 **両面原稿自動送り装置または原稿台（ガラス面）に原稿が正しくセットされているか確認する**

原稿のセットのしかたについては、「原稿をセットする」（45ページ）を参照してください。

2 **[再ダイヤル/ポーズ]キーを押す**

3 **[スタート]キー（◈）を押す**

4

原稿読み込み中にメモリーがいっぱいになったときは

原稿の読み込み中にメモリーがいっぱいになったときは、“メモリーガ イッパイデス”というメッセージが表示されて読み込みを中止します。
1枚目の原稿を読み込み中にメモリーがいっぱいになったときは、送信操作は自動的に中止されます。
2枚目以降の原稿を読み込み中にメモリーがいっぱいになったときは、読み込み操作が中止されます。この場合、すでに読み込まれたページまで送信するか、送信を中止してメモリーに読み込まれたデータを消去するか選択できます。

以下の手順ですでに読み込まれたページを送信したり消去したりすることができます。

1. メモリーがいっぱいになると原稿の読み込みが中止されます。
2. メモリーに読み込まれたページを消去して送信を中止するには、〔◄〕キー（⌄）または〔►〕キー（⌃）で“2:キャンセル”を選択します。読み込まれたところまで送信するときは“1:ソウシン”を選択してください。
3. 〔決定〕キーを押します。
   “2:キャンセル”を選択したときは、読み込んだ内容がメモリーから消去されます。
   “1:ソウシン”を選択したときは、自動的に送信が始まります。

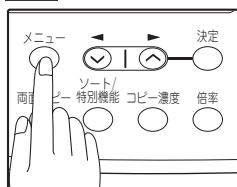
メモ　クイックオンライン送信（19ページ）の場合は、読み込まれたページは自動的に送信されます。

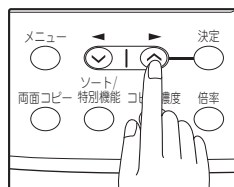
送信待機中のファクスジョブの中止

送信待機中のファクスジョブ（自動再コール、送信予約中のファクスジョブ、掲示板機能、時刻指定通信など）を確認または中止することができます。

メモ　送信予約中のファクスジョブは、他のジョブが送信中のときは中止できません。送信が完了してから中止してください。

送信を中止するときは、次の操作を行います。

1 **[メニュー]キーを押す**

2 **[◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“3:ヨヤク ジョウキョウ カクニン”を表示させ、[決定]キー押す**

4 **[◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で中止するジョブを選択し[クリア]キー（C）を押す**

中止するジョブが選択されます。

5 **[決定]キーを押す**

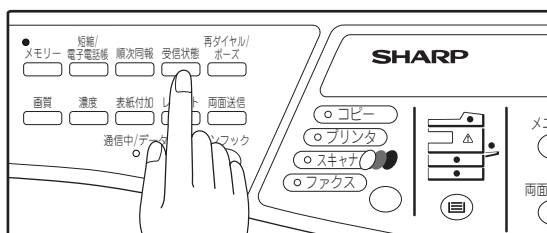
選択したジョブが削除されます。

6 **[メニュー]キーを押す**

待機状態に戻ります。

ファクスを受信する

本機の受信モードは、“ジドウ”、“シュドウ”、“ルスロク” の3つのモードから選択できます。
受信モードを選択する際は、ディスプレイで目的の受信モードが表示されるまで[受信状態]キーを押してください。

4

自動モードで受信する

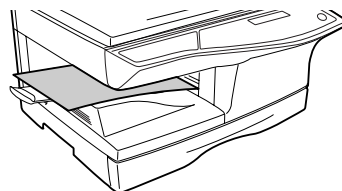
相手側からファクスが送られると、呼出音※が鳴り自動的に受信してプリントを開始します。「TEL/FAX ジドウキリカエ」機能（40ページ）が設定されている場合は、電話とファクスを自動的に切り替えます。（電話として使用するには、外部電話機の接続が必要です。）

- 受信したファクスを用紙の両面にプリントしたいときは、ユーザープログラムの「両面受信」（59ページ）を設定してください。
- 外部電話機を接続していないときは、自動受信にしてください。

受信のしかた

1 呼出音※が鳴ってから自動的に受信を開始する

通信中ランプが点灯します。

外部電話機を取り付けているときは、相手が手動送信の場合（58ページ）、受信を開始する前に受話器を上げれば、相手と通話することができます。

※呼出音の回数について

自動受信を開始するまでの呼出音の回数（受信開始コール回数）は、最初は2回になっています。ユーザープログラムによりこれを0～15回までのお好きな回数にセットすることができます。（21ページ「自動受信コール回数の設定」参照）
呼出音の回数を0回に設定すると、呼出音を鳴らさずに受信することができます。

2 受信が終わる

受信が終わると、「ピー」音が鳴ります。

手動モードで受信する（外部電話機を使用する）

外部電話機を接続して電話を受けるときにこのモードを選択します。手動モードに設定したときは、外部電話機で応答するまで本機は応答しません。相手がファクスを送信してきたときは、外部電話機で電話に出てから①[スタート]キー（ ）を押す。②[◄]キー（ ）または[►]キー（ ）で“2:ジュシン”を選択し、[決定]キーまたは[スタート]キー（ ）を押す。の操作で受信するか、外部電話機からリモート切替番号を入力して受信（下記「リモート受信」）することができます。

メモ 外部電話機を接続していない場合は、受信モードを自動モードに設定してください。ただし外部電話機を接続していない状態で手動モードに設定されているときに相手側から電話がかかってきた場合、[オンフック]キーを押して受信することはできます。（20ページ「手動モード（シュドウ）」参照）

外部電話機で通話する

通常の電話機と同様に、本機に接続した外部電話機で電話をかけたり、受けたりすることができます。

メモ ファクスの受信モードが自動受信で、TEL/FAX自動切替が設定されているときは、受信状態になる前に受話器を上げてください。受信状態に切り替わるまでの呼出音の回数は、最初は2回に設定されています。呼出音の回数は、ユーザープログラムにより0～15回の間で変更することもできます。（40ページ「TEL/FAX自動切替に設定したときは」参照）

外部電話機でファクスを受信状態にする（リモート受信）

かかってきた電話を外部電話機で受けた場合、通話したあと、続けて外部電話機を操作してファクスを受信することができます。これをリモート受信と呼びます。外部電話機で通話終了後、または受話器から「ポーポー」音が聞こえたときは、電話を切らずに次の操作を行います。（こちらからかけた場合は、リモート受信はできません。またこの操作で送信することはできません。）

メモ 回転ダイヤル回線をお使いで、トーン信号が出せない電話機を接続したときは、この機能は使用できません。トーン信号を出せる電話機かどうかは、お手持ちの電話機の取扱説明書を参照してください。

1 お使いの外部電話機をトーン信号発信状態にする

トーン信号の出しかたは、お使いの電話機の取扱説明書を参照してください。
トーン信号が発信状態になっている場合は次の手順に進みます。

2 外部電話機の数字キーの 5 キーを2回押し、次いで ＊ キーを押す

ファクス受信状態になります。

3 受話器を戻す

外部電話機から本機を受信状態にする2桁の番号（最初は“55”に設定されています）をリモート切替番号と呼びます。この番号は、ユーザープログラムにより00～99の間で変更することができます。（32ページ「リモート切替番号の設定」参照）

留守録モードで受信する

留守番電話機能付の外部電話機が本機に接続してあり、留守番電話で応答させるときにこのモードを選択します。外出中でも伝言やファクスを受けることができます。

受信設定

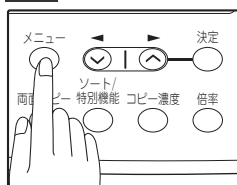
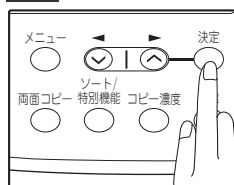
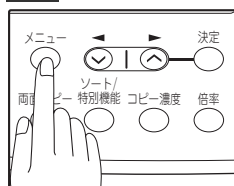
本機にはファクスを受信する際の様々な設定があります。

両面受信

ファクス受信データをプリントする際、用紙の両面にプリントすることができます。受信データの向きが異なる場合でも、自動的に回転して用紙の両面にプリントされます。

メモ　両面受信機能は通信結果表または通信記録表をプリントするときは使用できません。

次の手順で設定してください。

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“4:ユーザープログラム”を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“21:リョウメン ジュシン”を表示させ、[決定]キーを押す

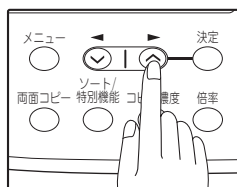
4 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“1:オン”または“2:オフ”を選択する

- “1:オン”を選択するとこの機能が有効になります。
- “2:オフ”を選択するとこの機能が無効になります。

5 [決定]キーを押す

6 [メニュー]キーを押す

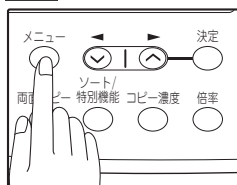
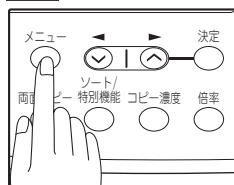
待機状態に戻ります。

4

自動縮小印字

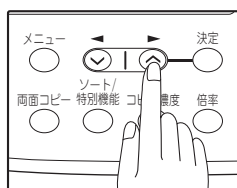
本機にセットされた用紙よりも大きなサイズのファクスを受信した場合、自動縮小印字機能を設定すると、受信データの一部が欠けないように、用紙サイズに合わせて自動的に縮小してプリントされます。

メモ　受信データのサイズや画質によっては縮小できない場合があります。このときは、元のサイズのまま何枚かの用紙に分割されてプリントされます。

次の手順で設定してください。

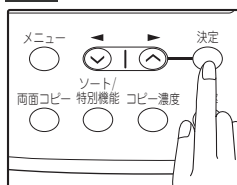
1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で"4:ユーザープログラム"を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で"14:ジドウ シュクショウ インジ"を表示させ、[決定]キーを押す

4 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で"1:オン"または"2:オフ"を選択する

"2:オフ"（縮小なし）を選択した場合、大きいサイズの受信データは複数ページにわたってプリントされます。

5 [決定]キーを押す

6 [メニュー]キーを押す

待機状態に戻ります。

5 便利な通信機能

メモリーについて

本機にはメモリーが内蔵されています。このメモリーは、送信する原稿を読み込ませたり、受信したファクスがプリントできないときに受信したデータを一時的に保存することができます。

- 約120ページの送受信原稿をメモリーに保存することができます。ただし、“チイサナジ”や“セイサイ”で読み取った場合は、記憶できるページ数は少なくなります。

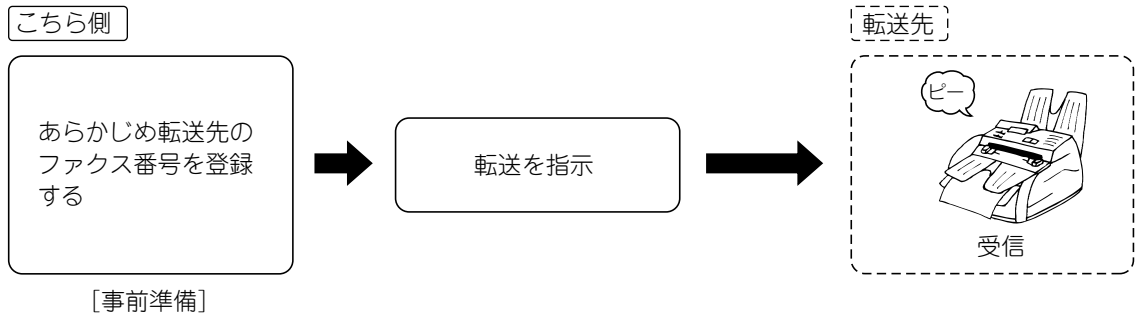
メモリー代行受信について

用紙切れやトナー切れ、紙づまりなどが起こったときは、自動的にこの機能がオンになります。

- ファクス受信中に用紙がなくなったときは、必ず前に使っていた用紙と同じサイズの用紙を補給してください。サイズが異なると、正しくプリントできない場合があります。

メモリー残量が7%以下にならないように注意してください。ファクスを受信できなくなります。
ファクス用メモリーの残量は、待機状態のときにディスプレイに表示されます。（10ページ「ディスプレイについて」参照）

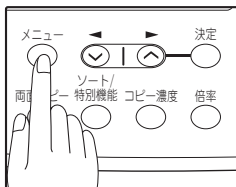
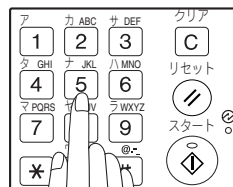
受信データをプリントできないときに他機へ転送する（転送機能）

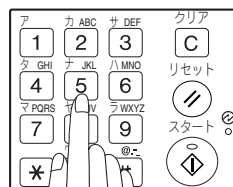
用紙切れやトナー切れなどで受信データをプリントできないときに、メモリー代行受信されている受信画像を別の相手先に転送する機能です。
この機能を使うときは、あらかじめ転送先のファクス番号を登録しておく必要があります。

メモ　転送は、本機が受信データをプリントできないときで、受信データがメモリーに保存されているときのみ可能です。この場合、[メニュー]キーを押すとディスプレイに“0:ジュシンデータ テンソウ”と表示されます。

次の手順で転送先のファクス番号を登録してください。

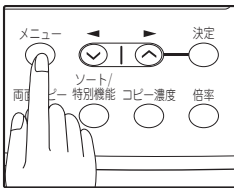
1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“0:ジュシンデータ テンソウ”を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“2:ファクス バンゴウ”を表示させ、[決定]キーを押す

4 数字キーで転送先のファクス番号を入力し、[決定]キーを押す

転送先のファクス番号を40桁以内で入力してください。

5 数字キーで転送先名を登録し、[決定]キーを押す

文字入力のしかたは「文字入力のしかた」（14ページ）を参照してください。

転送操作は、次の手順で行います。

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“0:ジュシンデータ テンソウ”を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“1:ジュシン ゲンコウ テンソウ”を表示させ、[決定]キーを押す

4 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“1:スル”を選択し、[決定]キーを押す

受信データが転送されます。
転送しないときは、“2:シナイ”を選択し、[決定]キーを押してください。

“テンソウサキ トウロク サレテイマセン”と表示されたときは

転送先のファクス番号が登録されていません。転送先を登録してから転送操作を行ってください。

メモ

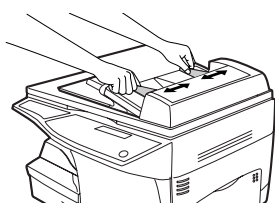
この機能を設定すると、一度転送動作に入った受信データは、転送先が話し中などで再コールしても転送できなかったときや、本機側でプリント可能な状態に復帰してもプリントすることはできません。プリントするときは、一度電源を入れ直してください。

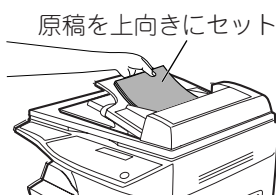
送信予約

ファクス受信中やメモリー送信中に、次の通信を予約する機能です。送受信終了後、自動的に予約した送信が行われるため、待ち時間を節約できます。操作は通常の送信と同じです。

両面原稿自動送り装置を使うとき

1 **原稿が原稿台（ガラス面）に残っておらず、コピー中でないことを確認し、両面原稿自動送り装置を閉じる**

2 **原稿セット台の原稿ガイドを原稿サイズに合わせる**

3 **送信したい面を上向きにして原稿セット台に原稿をセットする**

原稿の上端が右側になるようにセットしてください。
このとき、必要に応じて画質や濃度を設定します。

4 **以下のいずれかの方法で相手先のファクス番号を入力する**

- ワンタッチキーを押す
- [短縮/電子電話帳]キーを押し、短縮ダイヤル番号を入力する
- 数字キーを押してファクス番号を入力する

ワンタッチキーを押した場合や短縮ダイヤル番号を入力した場合は、次の操作（手順5）は不要です。
進行中のジョブが完了すると、ファクス番号がダイヤルされ、相手先につながると送信が開始されます。

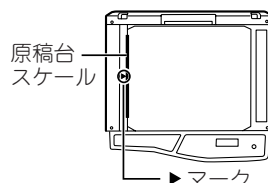
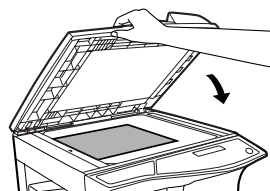
5 **数字キーで相手先の番号を入力した場合は、[スタート]キー（ ）を押す**

進行中のジョブが完了すると、ファクス番号がダイヤルされ、相手先につながると送信が開始されます。

原稿台（ガラス面）を使うとき

1 **両面原稿自動送り装置に原稿が残っていないことを確認してから開く**

2 **原稿台（ガラス面）に原稿を下向きにしてセットする**

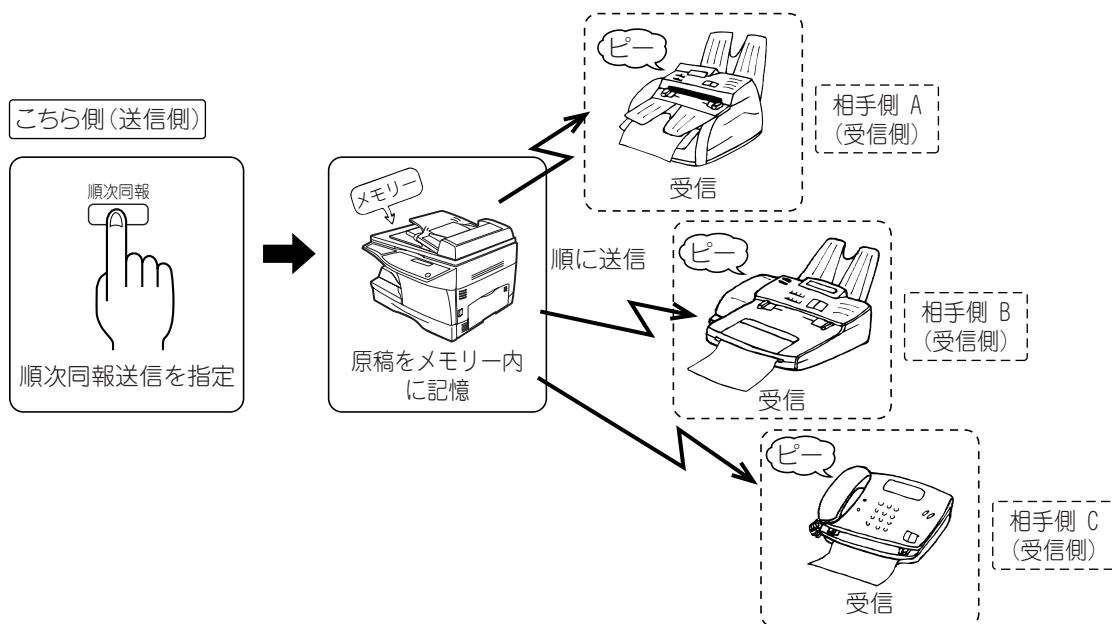
原稿台スケールのサイズに合わせてセットしてください。（▶マークに原稿端辺の中心を合わせてください。）

3 **両面原稿自動送り装置を静かに閉じる**

メモ　原稿台（ガラス面）を使う場合は、両面原稿自動送り装置に原稿をセットしないでください。

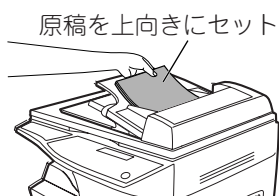
4 **必要に応じて送信原稿サイズ（47ページ）、画質（48ページ）、濃度（48ページ）を設定し、「ダイヤルのしかた」（52ページ）を参照して送信相手先のファクス番号を入力する**

5 **スタートキー（ ）を押して原稿をメモリーに読み込む**
原稿が複数枚ある場合は、原稿を入れ替えて[スタート]キー（ ）を押す操作をくり返す

6 **[#]キーを押す**

順次同報送信

1回の操作で複数の相手に同じ原稿を送信できる機能です。送信する原稿の内容をいったんメモリーに読み込み、指定した相手に対して順に送信を行います。最大100局まで順に送信することができます。

5

1 送信したい面を上向きにして原稿セット台に原稿をセットする

2 [順次同報]キーを押す

必要に応じて画質や濃度を調節してください。

メモ 画質や濃度の調節は、[順次同報]キーを押したあとに行ってください。

3 以下のいずれかの方法でファクス番号を入力する

- ワンタッチキーを押す
- [短縮/電子電話帳]キーを押し、短縮ダイヤル番号を入力する
- グループキーを押す
- 数字キーでファクス番号を入力する

4 [決定]キーを押す

他のファクス番号を入力するときは、手順3に戻ります。

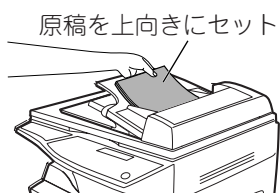
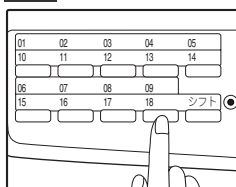
5 [スタート]キー（◇）を押す

送信が始まります。

グループダイヤルで順次同報送信を行う

順次同報送信でよく送信する相手先は、あらかじめグループダイヤルに登録しておくと次のような簡単な操作で順次同報送信を行うことができます。グループダイヤルの登録方法については、「グループダイヤルを登録する」（36ページ）を参照してください。

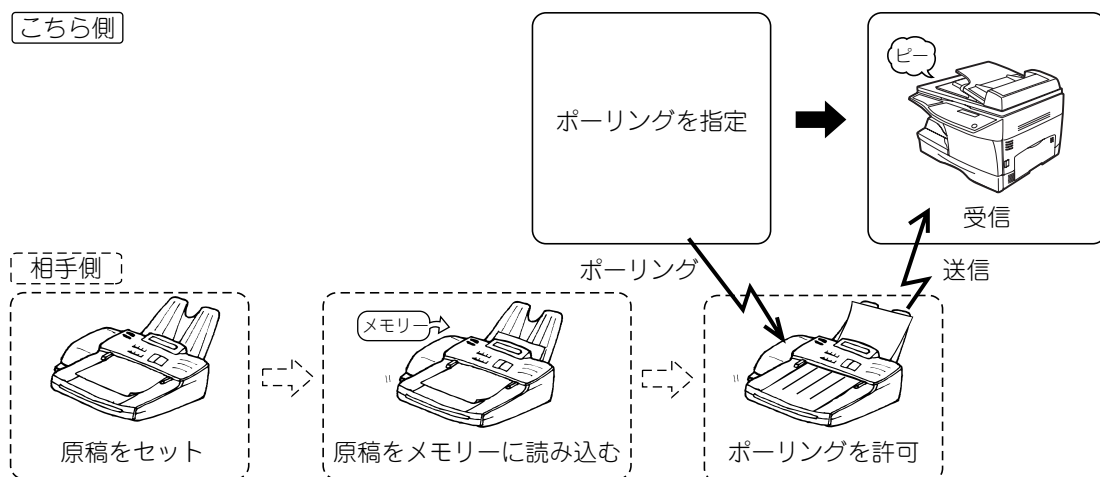
1 送信したい面を上向きにして原稿セット台に原稿をセットする

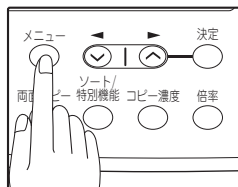
必要に応じて画質や濃度を調節してください。

2 グループキーを押す

送信が始まります。

ポーリング機能を使った送受信について

相手機にセットされた情報（原稿データ）を欲しいときに、こちら（本機）の操作で取り出したり、逆にこちら（本機）のメモリーに読み込んだ原稿データを、相手側の操作で取り出してもらうことができます。
あらかじめ相手側にセットされている原稿を、受信側（本機）が操作して相手機から送信させる機能を、「ポーリング」と呼びます。一方、本機のメモリーにあらかじめ読み込んでおいた原稿データを、相手機からのポーリングによって本機が自動的に送信する機能を「掲示板」と呼びます。
この機能は、相手機がスーパーG3またはG3対応機で、ポーリング機能を持っている場合にのみ使用することができます。
順次ポーリングはこちら側の一回の操作で、複数の相手側（最高100局）の原稿を受信することができます。

ポーリング機能の使いかた

こちら側（本機）の操作で、相手側のファクスにセットされた情報（原稿データ）を送信させます（取り出します）。夜間などに時刻を指定してポーリングを行うこともできます。（73ページ「時刻指定通信」参照）

ポーリング機能は次の手順で使用します。

1 **[メニュー]キーを押す**

2 **[◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“8:ポーリング”を表示させ、[決定]キーを押す**

3 **以下のいずれかの方法で、ポーリングを行うファクス番号を入力する**

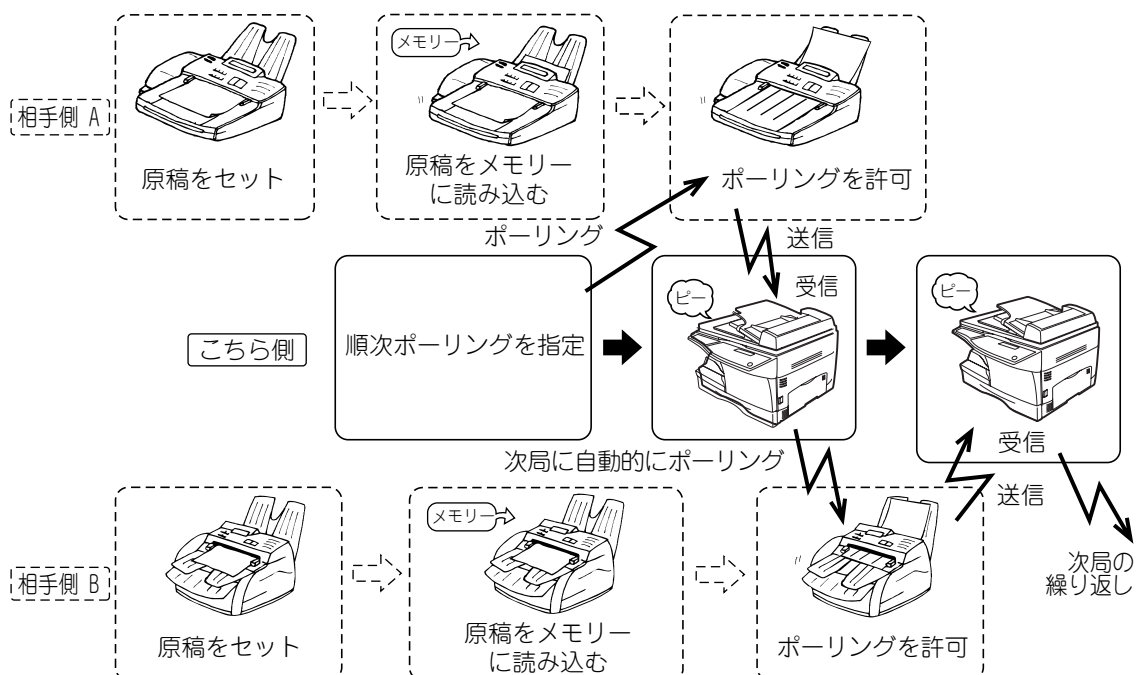
- ワンタッチキーを押す
- [短縮/電子電話帳]キーを押し、2桁の短縮ダイヤル番号を入力する
- 数字キーでファクス番号を入力する

ワンタッチキーを押した場合や短縮ダイヤル番号を入力した場合は、次の操作（手順4）は不要です。

メモ　グループキーを押すと、順次ポーリングを行うことができます。ファクス受信は、グループキーに登録された順に行われます。

4 **[スタート]キー（◇）を押す**

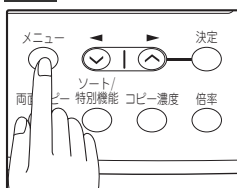
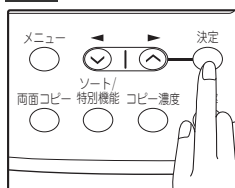
順次ポーリング

1回の操作で複数の相手先（最大100局）とポーリング通信を行うことができます。

順次ポーリング機能は次の手順で使用します。

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“9:ジュンジ ポーリング”を表示させ、[決定]キーを押す

3 以下のいずれかの方法で、ポーリングを行うファクス番号を入力する

- ワンタッチキーまたはグループキーを押す
- [短縮/電子電話帳]キーを押し、2桁の短縮ダイヤル番号を入力する
- 数字キーでファクス番号を入力する

4 [決定]キーを押す

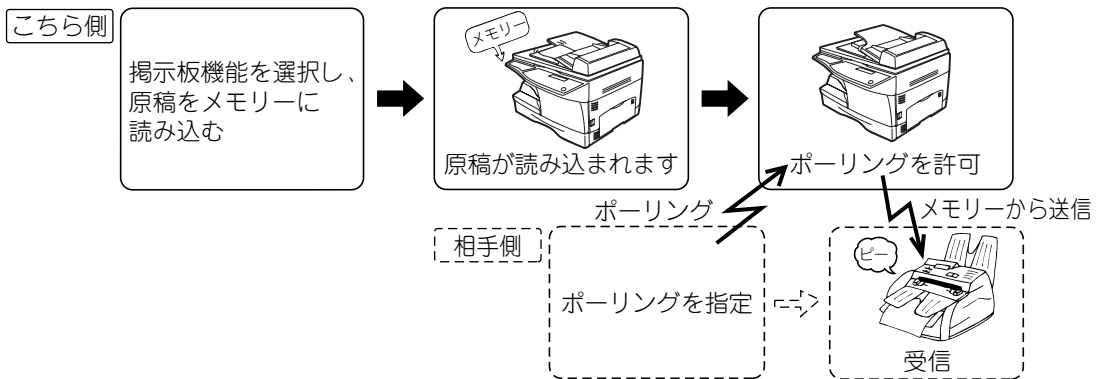
すべての相手先を入力するまで手順3～4を繰り返します。相手先の入力が完了したら手順5へ進みます。

5 [スタート]キー（◇）を押す

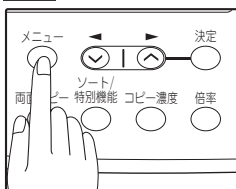
掲示板機能の使いかた

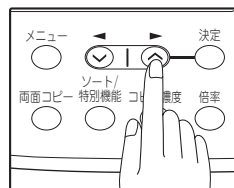
相手からポーリングがあった場合、あらかじめメモリー（掲示板）に読み込んでおいた内容を送信する機能です。ポーリング許可番号を登録し、通信できる相手を限定することもできます。(71ページ「掲示板を利用できる相手を限定する（ポーリング保護）」参照)

掲示板機能を使用するときは、あらかじめメモリーに原稿を読み込んでおき、ファクスの受信モードを“ジドウ”に設定しておく必要があります。
メモリーに読み込んだ原稿データは、ポーリングを受けて他機へ送信したあと、自動的に消去するか残しておくか（消去しないで何度でもポーリングを受けられるようにする）を設定できます。“1カイ”を選択すると送信後メモリーに読み込まれたデータは自動的に消去され、“ムセイゲン”を選択するとメモリーに読み込まれたデータを手動で消去するまで何度でも送信することができます。
掲示板用のメモリーには、複数枚の原稿を読み込むことができます。(ポーリングを受けたときは、読み込まれた全てのデータが送信されます。)
掲示板機能は1件のみ設定することができます。ポーリングを行う相手側ではポーリング機能が搭載されている必要があります。

掲示板のメモリーに読み込まれた原稿データは、相手側からポーリングを受けたときに送信されます。本機が掲示板送信待機状態であっても、ファクスの自動受信は可能です。

掲示板に原稿を読み込む

原稿を両面原稿自動送り装置または原稿台（ガラス面）にセットし、次の手順を行ってください。

1 **[メニュー]キーを押す**

2 **[◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“7:ケイジバン セッテイ”を表示させ、[決定]キーを押す**

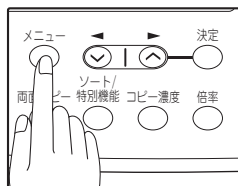
3 **[◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）でポーリングを受けて原稿データを他機へ送信する回数を選択し、[決定]キーを押す**

“1:1カイ”または“2:ムセイゲン”から選択します。

4 **[スタート]キー（◇）を押す**

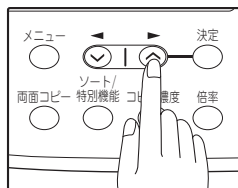
原稿台（ガラス面）から原稿を読み込ませる場合は、原稿を入れ替えて再度[スタート]キー（◇）を押す操作を、すべての原稿を読み込むまでくり返します。最後のページの読み込みが終了したら[#]キーを押してください。

掲示板に原稿を追加する

すでに掲示板のメモリーに原稿データが格納されているときに、新たに原稿を読み込んで追加することができます。原稿を両面原稿自動送り装置または原稿台（ガラス面）にセットし、次の操作を行います。

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で“7:ケイジバン セッテイ”を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で“1:ツイカ”を選択し、[決定]キーを押す

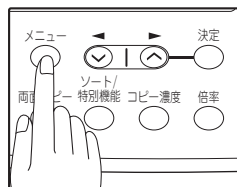
4 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）でポーリングを受けて原稿データを他機へ送信する回数を選択し、[決定]キーを押す

“1:1カイ”または“2:ムセイゲン”から選択します。

5 [スタート]キー（◇）を押す

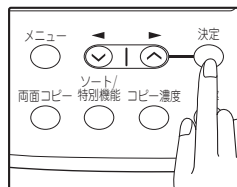
原稿台（ガラス面）から原稿を読み込ませる場合は、原稿を入れ替えて再度[スタート]キー（◇）を押す操作を、すべての原稿を読み込むまでくり返します。最後のページの読み込みが終了したら[＃]キーを押してください。

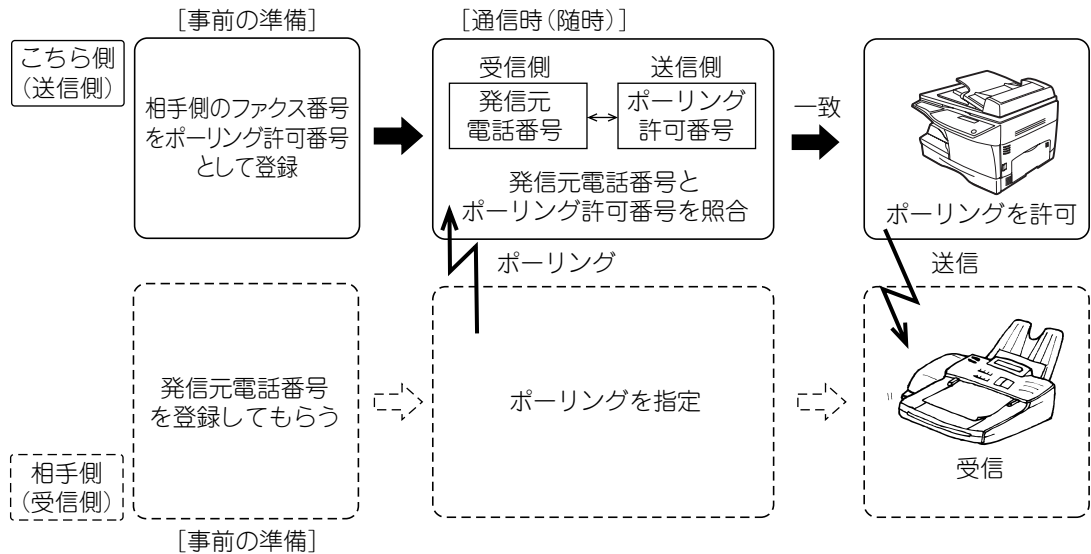
掲示板の原稿データを消去する

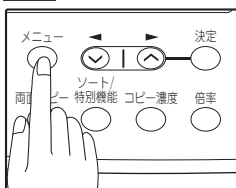
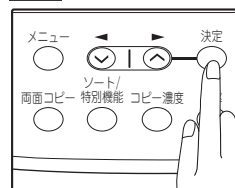
掲示板に読み込んだ原稿データを消去するときは、次の手順で行います。

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で“7:ケイジバン セッテイ”を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で“2:ショウキョ”を選択し、[決定]キーを押す

4 [決定]キーを押す

掲示板を利用できる相手を限定する（ポーリング保護）

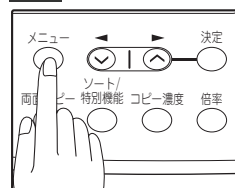
掲示板を利用できる相手を限定するときはポーリング保護を設定します。ポーリング保護を設定すると、あらかじめ本機に登録しているポーリング許可番号（本機がポーリングを許可する相手）と相手側の発信元電話番号（相手側のファクス番号）とが一致したときのみ、掲示板に格納した情報を取り出すことができます。ポーリング許可番号（相手側のファクス番号）は10局まで登録できます。
ポーリング許可番号の登録方法については、「ポーリング許可番号を登録する」（72ページ）を参照してください。

以下の手順でポーリング保護の設定を行ってください。

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“4:ユーザープログラム”を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“11:ポーリング ホゴ”を表示させ、[決定]キーを押す

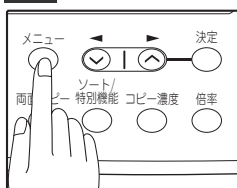
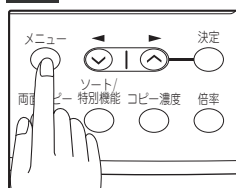
4 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“1:オン”を選択する

ポーリング保護を解除するには“2:オフ”を選択します。

5 [決定]キーを押す

6 [メニュー]キーを押す

待機状態に戻ります。

ポーリング許可番号を登録する

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“2:トウロク モード”を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“4:ポーリングキョカNO. トウロク”を表示させ、[決定]キーを押す

4 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“1:トウロク”を選択し、[決定]キーを押す

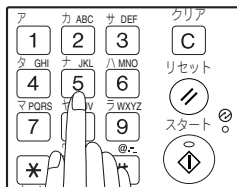
登録済のポーリング許可番号を削除するときは、“2:ショウキョ”を選択して[決定]キーを押してください。

5 数字キーでポーリング許可番号を登録するための2桁の管理番号（01～10）を入力し、[決定]キーを押す

すでに登録された許可番号を削除するときは、削除するポーリング許可番号を登録した2桁の管理番号を数字キーで入力し、[決定]キーを押すと削除されます。

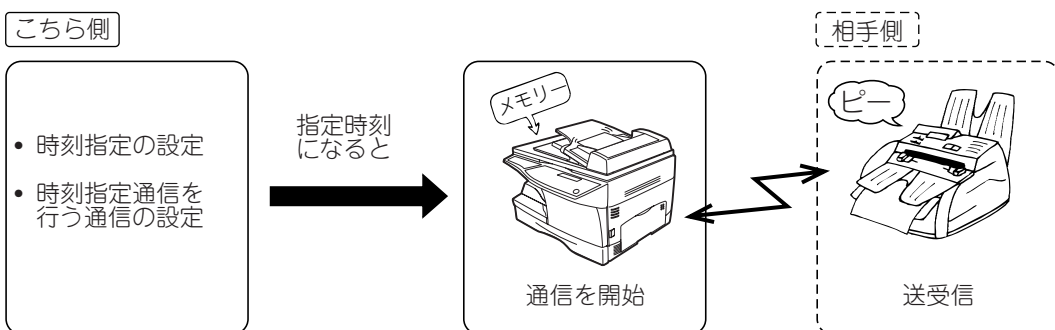
6 数字キーでポーリングを許可する相手先のファクス番号を入力し、[決定]キーを押す

7 [メニュー]キーを押す

待機状態に戻ります。

時刻指定通信

最長1週間先までの指定した時刻に、送信またはポーリング受信などを自動的に行う機能です。不在時や通話料金の安い夜間の通信に便利です。最大5件まで時刻指定できます。

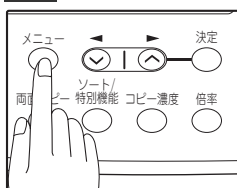
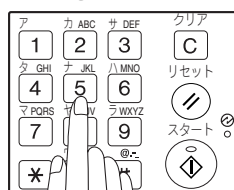
● 時刻指定送信では、原稿をあらかじめ読み込んでメモリー内に記憶しておく必要があります。原稿を原稿セット台または原稿台（ガラス面）にセットし、送信予約した時刻に読み込ませせることはできません。

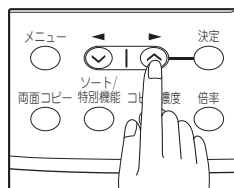
● 原稿読み込み中にメモリーがいっぱいになった場合は、ディスプレイに“メモリーフル ドウサ センタク”と表示されます。
  • それまで読み込んだデータを時刻指定送信する場合は[スタート]キー（　）を押します。
  • 時刻指定送信の操作を中止するときは、[リセット]キー（　）を押します。

時刻指定通信は次の手順で設定します。

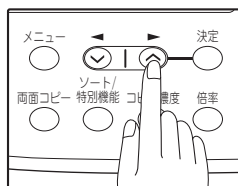
1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（　）または[►]キー（　）で“1:ジコク シテイ ソウシン”を表示させ、[決定]キーを押す

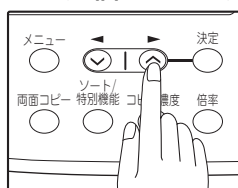
3 [◄]キー（　）または[►]キー（　）で“1:トウロク”を選択する

時刻指定操作を中止するには、“2:ショウキョ”を選択してください。

4 送信を行う予定時刻を数字キーで入力する

2桁で時と分を入力します。時刻表示を12時間制に設定しているときは、12時間制で入力してください。

5 時刻表示を12時間制に設定しているときは、[◄]キー（　）または[►]キー（　）で“AM”または“PM”を選択し、[決定]キーを押す

時刻表示が24時間制に設定されているときは、この操作は不要です。
手順6にお進みください。

6 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で曜日を選択し、[決定]キーを押す

"7:ナシ"を選択すると、予約した時刻が最初にきたときに通信を行います。

7 [決定]キーを押す

8 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で送信モードを選択し、[決定]キーを押す

次の中から選択します。
1:ツウジョウ ソウシン（通常送信）
2:ジュンジ ドウホウ（順次同報）
3:ポーリング
4:ジュンジ ポーリング（順次ポーリング）

9 以下のいずれかの方法でファクス番号を入力する

- ワンタッチキーを押す
- [短縮/電子電話帳]キーを押し、2桁の短縮ダイヤル番号を入力する
- 数字キーでファクス番号を入力する

ワンタッチキーを押した場合や短縮ダイヤル番号を入力した場合は、次の操作（手順10）は不要です。

10 [スタート]キー（◇）を押す

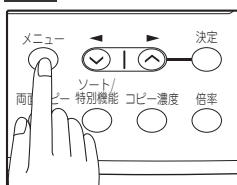
時刻指定通信を中止するときは

時刻指定通信を設定したあと、通信時刻になる前に中止するときは、「送信待機中のファクスジョブの中止」（56ページ）を参照し、予約状況確認機能で中止してください。

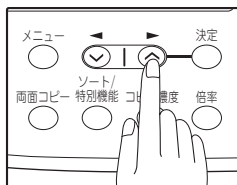
受信拒否設定機能

特定の相手先から送られたファクスの受信を拒否することができます。ファクス受信を拒否できる番号は最大10件登録できます。

受信拒否設定は次の手順で行います。

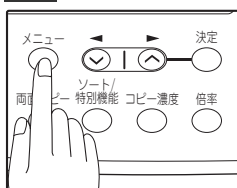
1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で"5:ジュシンキョヒセッテイ キノウ"を表示させ、[決定]キーを押す

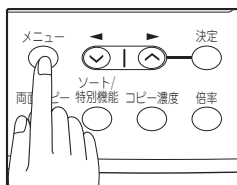
3 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で"1:ジュシンキョヒセッテイ"を表示させ、[決定]キーを押す

4 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で"1:オン"または"2:オフ"を選択し、[決定]キーを押す

- "1:オン"を選択するとこの機能が有効になります。
- "2:オフ"を選択するとこの機能が無効になります。

5 [メニュー]キーを押す

待機状態に戻ります。

5

受信拒否番号の登録は、次の手順で行います。

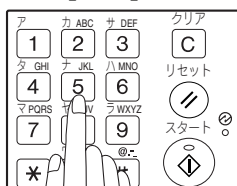
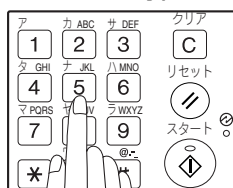
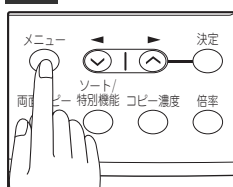
1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で"5:ジュシン キョヒ セッテイ キノウ"を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で"2:ジュシン キョヒ バンゴウ"を表示させ、[決定]キーを押す

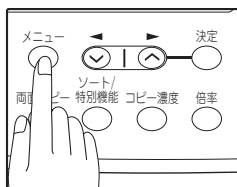
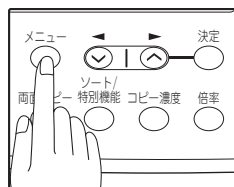
4 [◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で"1:トウロク"を選択し、[決定]キーを押す

5 数字キーで受信拒否番号を登録するための2桁の管理番号（01～10）を入力し、[決定]キーを押す

メモ

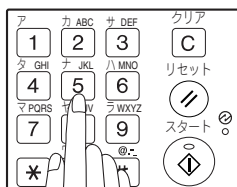
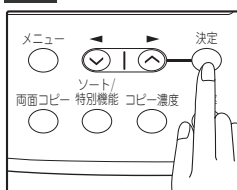
入力した2桁の管理番号にすでにファクス番号が登録されているときは、"#XXトウロク ズミ シュウセイ?"と表示されます。登録されたファクス番号を修正または変更する場合は、[◄]キー（∨）または[►]キー（∧）で"1:ハイ"を選択して[決定]キーを押し、新しいファクス番号を入力してください。

6 ファクス番号を数字キーで入力し、[決定]キーを押す

7 [メニュー]キーを押す

続けて次のファクス番号を登録するときは手順4に戻り、操作をくり返します。[メニュー]キーを押すと待機状態に戻ります。

受信拒否番号を削除するときは、次の手順で行います。

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で"5:ジュシン キョヒ セッテイ キノウ"を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で"2:ジュシン キョヒ バンゴウ"を表示させ、[決定]キーを押す

4 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で"2:ショウキョ"を選択し、[決定]キーを押す

5 数字キーで削除する受信拒否番号を登録した2桁の管理番号（01～10）を入力し、[決定]キーを押す

6 [決定]キーを押す

続けて他の受信拒否番号を削除するときは、手順4に戻ります。

7 [メニュー]キーを押す

待機状態に戻ります。

コピー /プリンタ/スキャナ/ファクスの各モードの動作について

本機をファクスモードで使用しているとき、またコピーモード、プリンタモード、スキャナモードで使用しているときに、同時に動作しない場合があります。

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">各モード</th><th>コピー</th><th>プリンタ</th><th colspan="2">スキャナ</th><th colspan="2">ファクス</th><th rowspan="2">外部電話機</th></tr>
<tr><th>コピー</th><th>プリント</th><th>本機からのスキャン</th><th>コンピュータからのスキャン</th><th>送信</th><th>受信</th></tr>
<tr><td rowspan="2">コピー</td><td>キー入力</td><td>可能</td><td>可能</td><td>不可</td><td>可能</td><td>可能※1</td><td>可能</td><td>可能</td></tr>
<tr><td>コピー中</td><td>不可</td><td>不可</td><td>不可</td><td>不可</td><td>可能※1</td><td>可能※2</td><td>可能</td></tr>
<tr><td>プリンタ</td><td>プリント</td><td>可能</td><td>不可</td><td>可能</td><td>可能</td><td>可能</td><td>可能※2</td><td>可能</td></tr>
<tr><td>スキャナ</td><td>スキャン中</td><td>不可</td><td>可能</td><td>不可</td><td>不可</td><td>可能※1</td><td>可能</td><td>可能</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ファクス送信</td><td>キー入力</td><td>不可</td><td>可能</td><td>不可</td><td>可能</td><td>可能</td><td>可能</td><td>可能</td></tr>
<tr><td>直接送信中</td><td>不可</td><td>可能</td><td>不可</td><td>不可</td><td>不可</td><td>不可</td><td>不可</td></tr>
<tr><td>原稿読み込み</td><td>不可</td><td>可能</td><td>不可</td><td>不可</td><td>可能※1</td><td>可能※4</td><td>可能</td></tr>
<tr><td>メモリー送信中</td><td>可能</td><td>可能</td><td>可能</td><td>可能</td><td>不可※3</td><td>不可</td><td>不可</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ファクス受信</td><td>手動受信中</td><td>可能</td><td>不可</td><td>可能</td><td>可能</td><td>不可※3</td><td>不可</td><td>不可</td></tr>
<tr><td>受信データプリント中</td><td>可能</td><td>不可</td><td>可能</td><td>可能</td><td>可能</td><td>可能※2</td><td>可能</td></tr>
<tr><td>メモリー受信中</td><td>可能</td><td>可能</td><td>可能</td><td>可能</td><td>不可※3</td><td>不可</td><td>不可</td></tr>
<tr><td colspan="2">外部電話機</td><td>可能</td><td>可能</td><td>可能</td><td>可能</td><td>不可※3</td><td>不可</td><td>不可</td></tr>
</table>

※1 直接送信や読み込みはできません。
※2 手動受信や受信データのプリントはできません。
※3 原稿を読み込むことは可能です。
※4 手動受信はできません。

登録・設定した内容や通信記録をプリントする

登録・設定した内容や通信記録の一覧表をプリントして内容を確認することができます。一覧表には次のものがあります。

1.通信予約表

時刻指定通信、送信予約の内容をプリントします。

P. 01

通信予約表

2005年01月05日（水）13:00

時刻指定

連番	指定時刻	通信手段	画質	MSG	枚数	表紙	相手先
01	12:34（水）	送信（メモリー）	普通字	1	1	無	ワンタッチ番号：01
02	23:45（土）	順次同報 3 件	普通字	1	1	無	ワンタッチ番号：01 短縮番号：01 ＦＡＸ番号：1234567890

掲示板

番号		通信手段	画質	MSG	枚数	表紙	回数
1		掲示板	普通字	1	1	無	無制限

2.通信記録表

通信が行われた相手先、通信時間、通信結果などの一覧を、送信と受信にわけてプリントします。

P. 01

通信記録表（送信）

2005年01月05日（水）13:00

番号	日付	開始時間	宛先名	所要時間	枚数	通信手段・通信結果	連番
01	10/26	13:57	3	**:**:**	0	ビジー	
02		13:59	3	0:00:41	0	通信エラー31 0000	
03		13:59	3	**:**:**	0	通信エラー31 0000	
04		16:58	3	0:00:14	1	メモリー OK	001
		合計		0:01:41	1		
		累計		0:02:40	1		

3.電話番号表

ワンタッチダイヤルや短縮ダイヤルに登録したファクス番号の一覧をプリントします。

P. 01

電話番号表

2005年01月05日（水）13:00

ワンタッチ／短縮番号	相手先ＦＡＸ番号	国際通信設定	相手先名
R01	1234567890	なし、 33600	ドキュメント1ギ
R02	2345678901	なし、 33600	ドキュメント2ギ
R03	3456789012 C		ドキュメント3ギ
R06	グループダイヤルに登録されています		

4.グループ表

グループダイヤルとして登録されているファクス番号の一覧をプリントします。

P. 01

グループリスト

2005年01月05日（水）13:00

番号	グループ名	相手先
Ｇ０６	グループ １	ワンタッチ番号：０１ 短縮番号 ：００ ＦＡＸ番号 ：０１２３４５６７８９
ＧＸＸ	ＸＸＸＸ	短縮番号 ：ＸＸＸ ＸＸＸ
ＧＸＸ	ＸＸＸＸ	ＦＡＸ番号 ：ＸＸＸＸＸＸＸＸ ：ＸＸＸＸＸＸＸＸ ：ＸＸＸＸ

5.発信元表

本機に登録した発信元名・発信元番号やポーリング許可番号の一覧をプリントします。

発信元表

2005年01月05日（水）13:00

ポーリング保護	保証する	
許可番号	０１	１２３４５６７８９０
	０２	２３４５６７８９０１
	０３	
	０４	
	０５	
	０６	
	０７	
	０８	
	０９	
	１０	

発信元名	キカク１
発信元番号	００１１２２３３４４５５６６７７８８９９
転送先名	キカク２
転送先番号	００１１２２３３４４５５６６７７８８９９

6.受信拒否番号表

受信拒否番号として登録されているファクス番号の一覧をプリントします。

受信拒否番号表

2005年01月05日（水）13:00

番号	ＦＡＸ番号
０１	１２３４５１２３４５
０２	２２３３４４５５
０３	０１２３４５６７

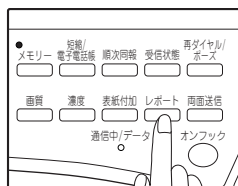
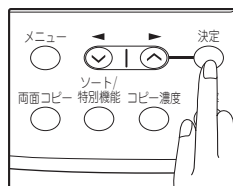
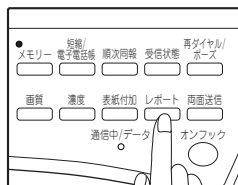
7.ユーザープログラム表

ユーザープログラム項目とその設定値の一覧をプリントします。

ユーザープログラム表

2005年01月05日（水）13:00

プログラム番号	項目	設定内容
1	原稿台読み取りサイズ設定	Ａ４
2	原稿台読み取りデフォルトサイズ設定	Ａ４
3	画質優先設定	普通字
4	自動受信コール回数設定	０２回
5	通信記録表出力設定	ＯＦＦ
6	通信結果表出力設定	送信時：エラー時のみ　順次系通信時：すべて印字 受信時：印字禁止　原稿：エラー時のみ
7	相手先ビジー時の再発信回数設定	０２回
8	通信エラー時の再発信回数設定	０２回
9	相手先ビジー時の再発信間隔設定	０３分
１０	通信エラー時の再発信間隔設定	０１分
１１	ポーリング保護設定	保護する
１２	リモート切替番号設定	５５
１３	ＦＡＸ信号検出設定	ＯＮ
１４	自動縮小印字設定	ＯＮ
１５	終了音の長さ設定	３秒
１６	呼び出し音量設定	中
１７	終了音量設定	小
１８	回線種類設定	ダイヤルトーン　２０ＰＰＳ
１９	インデックスプリント設定	印字しない
２０	年月日表示設定	時間：２４時間 日付：年月日
２１	両面受信設定	ＯＦＦ
２２	発信元印字	ＯＮ
２３	外部電話接続	ＯＮ
２４	電話／ＦＡＸ自動切替設定	ＯＦＦ
２５	ダイヤルイン設定	ＯＦＦ
２６	トレイ選択	自動

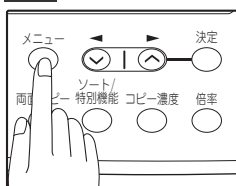
以下の手順で各一覧表をプリントできます。

1 [レポート]キーを押す

2 [レポート] キーでプリントする一覧表を選択する

[レポート]キーを押すごとにプリントする一覧表が切り替わり、ディスプレイに表示されます。

3 [決定]キーを押す

6

通信記録表を定期的にプリントする

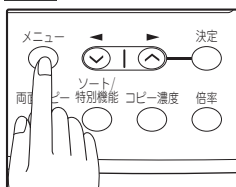
送受信の合計が50件を超えると自動的に通信記録表をプリントするように設定できます。送受信の合計が50件を超えたときは、新たに通信が行われるたびに一番古い通信記録から順に消去されます。

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“4:ユーザープログラム”を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“5:キロク ヒョウ 出力 セッテイ”を表示させ、[決定]キーを押す

4 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“1:オン”を選択し、[決定]キーを押す

自動プリントしないようにするには、“2:オフ”を選択して[決定]キーを押してください。

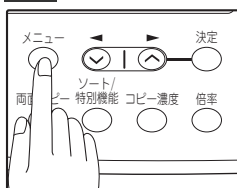
5 [メニュー]キーを押す

待機状態に戻ります。

通信結果表をプリントする

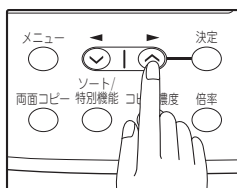
通常送信時、同報通信時、受信時それぞれの、いずれかの状態のときに通信結果表をプリントするか指定できます。

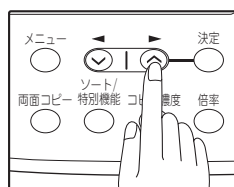
通信結果表がプリントされた際に、送信原稿内容（1ページ目の一部）をいっしょにプリントすることができます。その場合は、下記説明の手順4で“4:ツウシン イメージ インジ”を選択して設定してください。

通信結果表のプリントを行うように設定するときは次の手順を行ってください。

1 [メニュー]キーを押す

2 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“4:ユーザープログラム”を表示させ、[決定]キーを押す

3 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で“6:プリント センタク”を表示させ、[決定]キーを押す

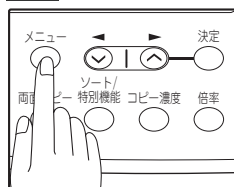
4 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）で目的の通信結果表を表示させ、[決定]キーを押す

次の中から選択します。
1: ソウシン ジ ケッカヒョウ（送信時結果表）
2: ドウホウ ジ ケッカヒョウ（同報時結果表）
3: ジュシン ジ ケッカヒョウ（受信時結果表）
4: ツウシン イメージ インジ（通信イメージ印字）

5 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）でプリント状態を選択して[決定]キーを押す

- “スベテ プリント”を選択したときは通信を行うごとにプリントされます。
- “プリント ナシ”を選択したときは通信結果表をプリントしません。

- 手順4で送信時結果表を選択し、“ソウシン フカノウ ジ ノミ”を選択した場合は、通信エラーなどで送信できなかったときのみプリントされます。
- 手順4で同報時結果表を選択し、“ツウシン シッパイ アイテサキ”を選択した場合は、通信エラーなどで送信できなかった相手先があるときのみプリントされます。
- 手順4で受信時結果表を選択し、“エラー ジ ノミ”を選択した場合は、何らかの理由で受信中にエラーが起こって受信できなかったときのみプリントされます。
- 手順4で通信イメージ印字を選択し、“ソウシン フカノウ ジ ノミ”を選択した場合は、通信エラーなどで送信できなかった場合に限り、送信時結果表に原稿の一部が印字されます。

6 [メニュー]キーを押す

待機状態に戻ります。

6

“故障かな？” と思ったら

ファクス機能が正常に動作しないとき、調子が悪いとき、次のことをお確かめください。それでも異常があるときは、取扱説明書（共通編）第8章の内容をご確認ください。
ここでは、ファクス機能に関する“故障かな”の事例について記載しています。本機の機能全般に関する“故障かな”の事例については、取扱説明書（共通編）の「故障かな？と思ったら」に記載していますので、そちらを参照してください。
また、この製品の故障について、NTTにはお問い合わせにならないでください。

こんなとき	原因と対処	ページ
ダイヤルできない	**電話回線の接続ケーブルが本機と電話線コンセントに正しく接続されていない** → 接続ケーブルをカチッと音がするまでしっかりと接続してください。	4
送信できない	**受信側の用紙がなくなっている** → 相手側に確認してください。	-
	相手側がG3適合機でない → 相手側に確認してください。	-
	エラーメッセージが表示されている → 本機のディスプレイを確認してください。	85
白紙が出てくる	**受信したとき、正常なものともう1枚白紙が出る場合、本機にセットされている用紙と用紙サイズの設定が合っていない** → 本機にセットされている用紙と用紙サイズの設定を合わせてください。	22
送信した画像が大きく乱れている	**電話回線のノイズでゆがみが生じることがあります。もう一度送信するか、本機で原稿のコピーをとって、画像のゆがみが出るか確認する** → 確認した結果、画像が乱れているときは、お買いあげの販売店にご相談ください。	-
受信した画像が薄い	**相手側から送信するときの濃度設定が薄い** → 相手側に濃度を濃くして原稿を送信してもらってください。	-
	エラーランプが点灯し、ディスプレイに “トナーガ ノコリワズカデス トナーヲ ジュンビシテクダサイ”と表示されている → トナー残量が少なくなっています。トナーがなくなるとエラーランプが点滅するとともにトナーがなくなったことをお知らせするメッセージを表示し、本機は停止します。お早めに新しい現像カートリッジに交換してください。	取扱説明書（共通編）「現像カートリッジを交換する」
受信した画像が大きく乱れている	**電話回線のノイズでゆがみが生じることがあります** → 相手側にもう一度送信してもらってください。	-

メッセージと報知音について

こんな表示が出たら

ディスプレイの表示	原因と対処方法	ページ
ﾎﾝﾀｲﾉﾏｴｶﾊﾞｰ ﾏﾀﾊ ﾖｺｶﾊﾞｰｦ ﾄｼﾞﾃｸﾀﾞｻｲ	本機のカバーが開いています。カバーを閉じてください。	取扱説明書（共通編）を参照してください。
ｹﾞﾝｺｳｵｸﾘｿｳﾁﾉ ｶﾊﾞｰｦﾄｼﾞﾃｸﾀﾞｻｲ	両面原稿自動送り装置のカバーが開いています。カバーを閉じてください。	
ｼﾞｬﾑﾖｳｼｦ ﾄﾘﾉｿﾞｲﾃｸﾀﾞｻｲ	紙づまりが発生しています。 取扱説明書（共通編）の「つまった紙を取り除く」を参照して、つまった紙を取り除いてください。	
ｹﾞﾝｺｳｵｸﾘｿｳﾁｦ ｶｸﾆﾝｼﾃｸﾀﾞｻｲ		
ﾒﾓﾘｰ ﾌﾙ ﾄﾞｳｻ ｾﾝﾀｸ	メモリーがいっぱいになっています。	56
ﾄﾚｲ<*>ﾆ*****ｻｲｽﾞ ﾖｳｼｦ ｾｯﾄｸﾀﾞｻｲ	受信データのプリントに使用する用紙サイズが正しく設定されていません。正しく設定し直してください。（「*****」にはA4、8.5x11、8.5x14のいずれかが、<*>にはトレイの番号が表示されます。）	22
ﾌﾟﾘﾝﾄ ﾃﾞｷﾏｾﾝ	トナーがなくなっているか、現像カートリッジが本機にセットされていません。現像カートリッジを新しいものに交換してください。	取扱説明書（共通編）を参照してください。
xxxxxｻｲｽﾞｶﾞｱﾘﾏｾﾝ ﾄﾚｲﾉｾｯﾃｲｦ ｶｸﾆﾝｸﾀﾞｻｲ	受信データのプリントに使用できるサイズの用紙がトレイにセットされていません。トレイの用紙サイズ設定を、ディスプレイに表示されたサイズに変更し、用紙をセットしてください。（“xxxxx”にはA4、8.5x11、8.5x14のいずれかが表示されます。）	-

報知音について

音の種類	音の長さ	意味
連続音	3秒	送受信の終了や通信エラーなどを表します。
連続音	1秒	警告音を表します。

7 付録

仕様

電源や消費電力、大きさや質量など、他の機能と共通する仕様は取扱説明書（共通編）「仕様」を参照してください。

使用回線	一般加入電話回線、ファクシミリ通信網（Ｆネット）※1
帯域圧縮方法	MH・MR・MMR・JBIG
伝送モード	スーパー G3、G3（本機器で送受信できるのは、相手機もスーパー G3またはG3規格のファクスに限られます。）
走査方式	CCDによる固定平面走査
走査線密度（ITU-T規格対応）	8×3.85本/mm（普通字） 8×7.7本/mm（小さな字、小さな字中間調） 8×15.4本/mm（精細、精細中間調）
記録方式	レーザービーム方式、静電方式
通信速度	33.6kbps→2.4kbps　自動フォールバック
電送時間※2	2秒台（スーパー G3モード／33.6kbps、JBIG）、 6秒台（G3　ECMモード／14.4kbps、JBIG）
用紙サイズ	A4、8-1/2" x 11"（レター）、8-1/2" x 14"（リーガル）
記録有効幅	最大216mm（8-1/2" x 14"記録）
送信原稿サイズ	両面原稿自動送り装置を使用する場合 　最大　片面原稿：216mm x 500mm　両面原稿：216mm x 356mm 　最小　140mm x 216mm 原稿台（ガラス面）を使用する場合 　216mm x 356mm
読取有効幅	最大216mm
中間調伝送	256階調
コントラスト（濃度）調整	薄く、普通、濃く
外部電話接続	可能（１台）
オートダイヤル	ワンタッチダイヤル、グループダイヤルで計18件、短縮ダイヤルで100件まで登録可能、再ダイヤル（自動再発信）
時刻指定通信	あり
原稿連続自動給紙	あり（最大30枚）
画像メモリー容量	2 MB
自動誤り再送機能（ECM）	あり

※1 本機器は1,300Hz対応が可能です。お使いいただくときは、お買いあげ販売店またはもよりのシャープお客様ご相談窓口にお問い合わせください。

※2 A4版700字程度の原稿を、標準的画質（走査線密度8×3.85本/mm）で、高速モード（通信速度33.6kbps（JBIG）または14.4kbps（JBIG））で送信したときの電送時間です。これは画像情報のみの電送時間で、通信の制御時間は含まれておりません。なお、実際の通信時間は、原稿の内容・相手機種・回線の状態により異なります。

本機の改良変更などにより、図や内容が一部異なる場合がありますので、ご了承ください。

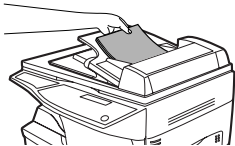
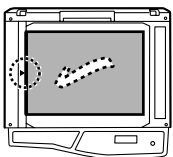
ファクシミリ通信網(Fネット)について

この製品は、Fネット（ファクシミリ通信網）を利用することができます。
詳しくはFネットのパンフレットをごらんください。Fネットのご利用については利用契約が必要ですので、もよりのNTTの支店・営業所へお問い合わせください。

- Ｆネットを利用して送受信する場合、この製品のポーリング通信（67ページ）、TEL/FAX自動切替（40ページ）は使えません。
  また画質選択は“フツウジ”、“チイサナジ”、“セイサイ”でのみ送信できます。
- 送信先がＦネットに加入していないときは、G3機に限りＦネットでの送信ができます。

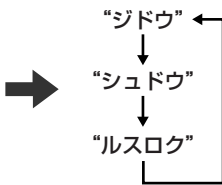
7

操作早見表

この操作早見表は、本機の送受信や登録・設定操作に関する簡単な説明をしています。
詳しい操作方法については、それぞれに記載の参照ページをご覧ください。

送受信操作

■送信モードの選択

項目	操作			参照ページ
送信モードの切り替え	**メモリー送信モード** メモリー メモリーランプが**点灯**しているときは、メモリー送信モードです。	**[メモリー]キー**を押してモードを切り替えます。	**直接送信モード** メモリー メモリーランプが**消灯**しているときは、直接送信モードです。	19

■原稿をセットする

項目	操作	参照ページ
両面原稿自動送り装置を使う場合	送信したい面を**上向き**にして原稿セット台に原稿をセットします。 原稿の上端が**右側**になるようにセットしてください。（一度に**30枚**まで）	45
原稿台（ガラス面）を使う場合	原稿台（ガラス面）に原稿を**下向き**にしてセットします。 原稿台スケールのサイズに合わせてセットしてください。 （▶マークに原稿端辺の**中心**を合わせてください。）	46

■ファクスを送信する

項目	操作	参照ページ
ダイヤル方法		
直接ダイヤルする	[0] 〜 [9] **数字キー**でダイヤルします。	52
短縮ダイヤル	[短縮/電子電話帳] → [0] 〜 [9] **2桁**の短縮ダイヤル番号（00〜99）を押します。	52
ワンタッチダイヤル	01〜09：[シフト] ランプを**消灯**させる → [01/10] 〜 [09/18] 10〜18：[シフト] ランプを**点灯**させる → [01/10] 〜 [09/18] ※ワンタッチキーを押したあと、[スタート]キー（◈）を押す必要はありません。	52
チェーンダイヤル	**チェーンダイヤルに設定した**短縮ダイヤル／ワンタッチキーを押します。 [短縮/電子電話帳] → [0] 〜 [9] または [01/10] 〜 [09/18] **数字キー**でダイヤルを行い、**[再ダイヤル/ポーズ]キー**を押します。 [0] 〜 [9] → [再ダイヤル/ポーズ] → つづきのダイヤル番号を入力します。（**グループダイヤル**は使用できません。）	53
検索してダイヤルする	[短縮/電子電話帳] **2回**押す → [0] 〜 [9]、[＊]、[＃] **登録名**の頭文字を入力する → [◀ ▶] 相手を選びます。 ※ 検索する文字を入力する際、カナ入力と英字入力の切り替えは[再ダイヤル/ポーズ]キーを押します。	14、55
再ダイヤル	[再ダイヤル/ポーズ] **直前**にかけた番号に、自動的にダイヤルします。	55

項目	操作	参照ページ
ファクスを送信する		
両面原稿自動送り装置を使う場合	原稿をセット → 画質 濃度 画質、濃度の調整を行う → ダイヤル → [スタート]	45、48
原稿台（ガラス面）を使う場合	原稿をセット → 原稿サイズを設定する → 画質 濃度 画質、濃度の調整を行う → ダイヤル → [スタート] → 原稿が複数枚のときは操作をくり返し[スタート]キー（[スタート]）を押します。 → #	46〜48
順次同報送信		
複数の相手に同じ原稿を送信する	原稿をセット → 順次同報 → 画質 濃度 画質、濃度の調整を行う → ダイヤル ダイヤル、[決定]キーを押す操作を宛先分くり返す → [スタート]	48、65
送信予約		
ファクスの使用中に次の通信を予約する	ファクスが通信中の場合 原稿をセット → 画質 濃度 画質、濃度の調整を行う → ダイヤル → [スタート] 現在進行中のファクス通信終了後、送信されます。	64
時刻指定通信	時刻指定通信の設定のしかたについては、「時刻指定通信」を参照してください。	73

■ファクスを受信する

項目	操作	参照ページ
受信モード		
受信モードの切り替え	受信状態 **[受信状態]キー**を押すごとにモードが切り替わります。モードは、ディスプレイに表示されます。 → “ジドウ” → “シュドウ” → “ルスロク” → “ジドウ” **“ジドウ”**： **自動的**に応答して、ファクスを受信します。 **“シュドウ”**： 手動でファクスを受信するときに選択します。[オンフック]キーを押すか、外部電話機の受話器を上げてかかってきた電話を受け、相手がファクスを送信してきたときは、①[スタート]キー（）を押す。②[◄]キー（）または[►]キー（）で”2:ジュシン”を選択し、[決定]キーまたは[スタート]キー（）を押す。の操作で受信することができます。 **“ルスロク”**： **留守番電話**機能付の外部電話機が本機に接続してあり、留守番電話で応答するときに、このモードを選びます。外出中でも伝言やファクスを受けることができます。	57
ポーリングモード		
相手側であらかじめセットされている原稿をこちら側の操作で受信する	メニュー → ◄ ► → 決定 → “8:ポーリング”の選択 → **ダイヤル** → 本機にあらかじめ読み込んだ原稿データを、相手側のポーリング操作により送信することもできます。（**掲示板機能**：69ページ）掲示板機能を使用するときは、本機の受信モードを必ず**“ジドウ”**に設定してください。	67

ファクス機能リスト

ファクスメインメニューでは、ファクス機能に関する設定やオートダイヤルの登録などが行えます。
ファクスメインメニューの設定項目は次のとおりです。
各項目の設定方法については、「機能の選択および設定方法」（96ページ）を参照してください。

項目	設定（太字が工場出荷時）	ページ
0:ｼﾞｭｼﾝﾃﾞｰﾀ ﾃﾝｿｳ（受信データ転送）※		
1:ｼﾞｭｼﾝ ｹﾞﾝｺｳ ﾃﾝｿｳ（受信原稿転送）	本機でプリントできないときに、あらかじめ登録しておいた相手先に受信データを転送します。	63
2:ﾌｧｸｽ ﾊﾞﾝｺﾞｳ（ファクス番号）	受信データを転送する相手先のファクス番号を登録します。	62
1:ｼﾞｺｸ ｼﾃｲ ｿｳｼﾝ（時刻指定送信）		
1:ﾄｳﾛｸ（登録）	指定した時刻に自動的に送信やポーリング受信を行うことができます。	73
2:ｼｮｳｷｮ（消去）	時刻指定通信を中止します。	
2:ﾄｳﾛｸ ﾓｰﾄﾞ（登録モード）		
1:ﾌｧｸｽ ﾊﾞﾝｺﾞｳ（ファクス番号）	ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤル、グループダイヤルを登録／消去します。 1:ﾜﾝﾀｯﾁ ﾀﾞｲﾔﾙ 2:ﾀﾝｼｭｸ ﾀﾞｲﾔﾙ（短縮ダイヤル） 3:ｸﾞﾙｰﾌﾟ ﾀﾞｲﾔﾙ	33〜38
2:ﾆﾁｼﾞ ｾｯﾃｲ（日時設定）	本機に日付と時刻を登録します。	15
3:ﾊｯｼﾝﾓﾄ ﾄｳﾛｸ（発信元登録）	本機の発信元名（名前）と発信元番号（ファクス番号）を登録します。	18
4:ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ ｷｮｶNO. ﾄｳﾛｸ（ポーリング許可NO. 登録）	ポーリング保護機能を設定したときに、ポーリングを許可する相手先のファクス番号（ポーリング許可番号）を登録します。	72
3:ﾖﾔｸ ｼﾞｮｳｷｮｳ ｶｸﾆﾝ（予約状況確認）	送信や自動再コールを予約中のファクスジョブの確認、消去を行うことができます。	56
4:ﾕｰｻﾞｰﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ		
1:ｹﾞﾝｺｳﾀﾞｲｻｲｽﾞ（原稿台サイズ）	原稿台（ガラス面）から送信するとき、原稿のサイズを設定します。（1回の送信に限り有効です。） **1:A4** 2:8.5x11（8-1/2"x11"） 3:8.5x14（8-1/2"x14"）	47
2:ｹﾞﾝｺｳﾀﾞｲｻｲｽﾞ ｺﾃｲ（原稿台サイズ固定）	原稿台（ガラス面）から送信する原稿のサイズを設定します。（原稿台（ガラス面）から送信する原稿すべてに有効です。） **1:A4** 2:8.5x11（8-1/2"x11"） 3:8.5x14（8-1/2"x14"）	47
3:ｶﾞｼﾂ ﾕｳｾﾝｾｯﾃｲ（画質優先設定）	送信時の標準解像度を設定します。 **1:ﾌﾂｳｼﾞ（普通字）** 2:ﾁｲｻﾅｼﾞ（小さな字） 3:ｾｲｻｲ（精細）	30
4:ｼﾞﾄﾞｳｼﾞｭｼﾝｺｰﾙｶｲｽｳ（自動受信コール回数）	自動受信時、ファクスを受信するまでの呼出音の回数を設定します。 00 〜 15 **（02）**	21

※プリントできない受信データを保持していないときは、ファクスメインメニューにこの項目は表示されません。

項目	設定（太字が工場出荷時）	ページ
5:ｷﾛｸ ﾋｮｳ 出力 ｾｯﾃｲ （記録表出力設定）	送信および受信の通信記録表を50件ごとに自動的にプリントするかどうかを設定します。 1:ｵﾝ **2:ｵﾌ**	82
6:ﾌﾟﾘﾝﾄ ｾﾝﾀｸ （プリント選択）	1:ｿｳｼﾝ ｼﾞ ｹｯｶ ﾋｮｳ ファクス送信時に通信結果表をプリントする状態を選択します。 1:ｽﾍﾞﾃ ﾌﾟﾘﾝﾄ（全てプリント） **2:ｿｳｼﾝ ﾌｶﾉｳ ｼﾞ ﾉﾐ（送信不可能時のみ）** 3:ﾌﾟﾘﾝﾄ ﾅｼ	83
	2:ﾄﾞｳﾎｳ ｼﾞ ｹｯｶ ﾋｮｳ（同報時結果表） 順次同報送信時に通信結果表をプリントする状態を選択します。 **1:ｽﾍﾞﾃ ﾌﾟﾘﾝﾄ（全てプリント）** 2:ﾂｳｼﾝ ｼｯﾊﾟｲ ｱｲﾃｻｷ（通信失敗相手先） 3:ﾌﾟﾘﾝﾄ ﾅｼ	
	3:ｼﾞｭｼﾝ ｼﾞ ｹｯｶ ﾋｮｳ（受信時結果表） ファクス受信時に通信結果表をプリントする状態を選択します。 1:ｽﾍﾞﾃ ﾌﾟﾘﾝﾄ（全てプリント） 2:ｴﾗｰｼﾞ ﾉﾐ（エラー時のみ） **3:ﾌﾟﾘﾝﾄ ﾅｼ**	
	4:ﾂｳｼﾝ ｲﾒｰｼﾞ ｲﾝｼﾞ（通信イメージ印字） 通信結果表がプリントされた際に、原稿の一部をいっしょにプリントするかどうかを選択します。 1:ｽﾍﾞﾃ ﾌﾟﾘﾝﾄ（全てプリント） **2:ｿｳｼﾝ ﾌｶﾉｳ ｼﾞ ﾉﾐ（送信不可能時のみ）** 3:ﾌﾟﾘﾝﾄ ﾅｼ	
7:ｻｲｺｰﾙ ｶｲｽｳ(ﾋﾞｼﾞｰ) （再コール回数(ビジー)）	相手が話し中だったときに自動で発信し直す回数を設定します。 00～15 **（02）**	24
8:ｻｲｺｰﾙ ｶｲｽｳ(ｴﾗｰ) （再コール回数(エラー)）	通信エラーが発生したときに自動で発信し直す回数を設定します。 00～15 **（02）**	25
9:ｻｲｺｰﾙ ｶﾝｶｸ(ﾋﾞｼﾞｰ) （再コール間隔（ビジー））	相手が話し中だったときに自動で発信し直す間隔を1分から15分のあいだで設定します。 01～15 **（03）**	26
10:ｻｲｺｰﾙ ｶﾝｶｸ(ｴﾗｰ) （再コール間隔（エラー））	通信エラーが発生したときに自動で発信し直す間隔を即再発信（00）から15 分のあいだで設定します。 00～15 **（01）**	27
11:ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ ﾎｺﾞ （ポーリング保護）	ポーリング保護を設定します。 **1:ｵﾝ** 2:ｵﾌ	71
12:ﾘﾓｰﾄ ｷﾘｶｴ ﾊﾞﾝｺﾞｳ （リモート切替番号）	リモート受信を行うためのリモート切替番号（2桁）を設定します。 00～99 **（55）**	32
13:FAXｼﾝｺﾞｳｹﾝｼｭﾂｾｯﾃｲ （FAX信号検出設定）	本機は、外部電話機で応答したときにファクス音が聞こえると自動的に受信を始めるように設定されています。 **1:ｵﾝ** 2:ｵﾌ	31

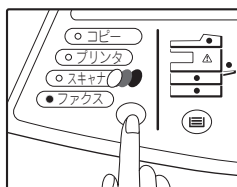
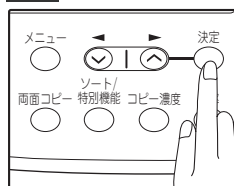
	項目	設定（太字が工場出荷時）	ページ
	14:ｼﾞﾄﾞｳ ｼｭｸｼｮｳ ｲﾝｼﾞ （自動縮小印字）	本機にセットされた用紙より大きいサイズのファクスを受信した場合、セットされている用紙サイズに自動的に縮小してプリントできます。 **1:ｵﾝ** 2:ｵﾌ	60
	15:ｼｭｳﾘｮｳｵﾝ ﾅｶﾞｻｾｯﾃｲ （終了音長さ設定）	ファクスの送受信終了時に鳴る終了音の長さを設定します。 **1:3ﾋﾞｮｳ（3秒）** 2:1ﾋﾞｮｳ（1秒） 3:ｵﾌ	12
	16:ﾖﾋﾞﾀﾞｼ ｵﾝﾘｮｳ ｾｯﾃｲ （呼出音量設定）	呼出音の音量を設定します。 1:ｵﾌ 2:ｼｮｳ（小） **3:ﾁｭｳ（中）** 4:ﾀﾞｲ（大）	11
	17:ｼｭｳﾘｮｳ ｵﾝﾘｮｳ ｾｯﾃｲ （終了音量設定）	ファクスの送受信終了時に鳴る終了音の音量を設定します。 1:ｵﾌ **2:ｼｮｳ（小）** 3:ﾁｭｳ（中） 4:ﾀﾞｲ（大）	13
	18:ｶｲｾﾝ ｼｭﾙｲ ｾｯﾃｲ （回線種類設定）	お使いの電話回線に合わせて設定します。 **1:ﾄｰﾝ（ﾌﾟｯｼｭ）** 2:10PPS（ﾀﾞｲﾔﾙ） 3:20PPS（ﾀﾞｲﾔﾙ） 4:ｼﾞﾄﾞｳ（自動）	23
	19:ｲﾝﾃﾞｯｸｽﾌﾟﾘﾝﾄ ｾｯﾃｲ （インデックスプリント設定）	受信した用紙の上部に黒色マーク（インデックス）をプリントする機能です。 1:ｵﾝ **2:ｵﾌ**	28
	20:ﾆﾁｼﾞ ｾｯﾃｲ ﾌｫｰﾏｯﾄ （日時設定フォーマット）	1:ｼﾞｶﾝ ﾌｫｰﾏｯﾄ（時間フォーマット） 時刻の表示を12時間制または24時間制から選択できます。 1:12ｼﾞｶﾝ（12時間） **2:24 ｼﾞｶﾝ（24時間）**	16
		2:ﾋﾂﾞｹ ﾌｫｰﾏｯﾄ（日付フォーマット） ディスプレイに表示される日付の書式を設定します。 1:ｶﾞﾂ/ﾆﾁ/ﾈﾝ（月/日/年） 2:ﾆﾁ/ｶﾞﾂ/ﾈﾝ（日/月/年） **3:ﾈﾝ/ｶﾞﾂ/ﾆﾁ（年/月/日）**	17
	21:ﾘｮｳﾒﾝ ｼﾞｭｼﾝ （両面受信）	ファクスデータを受信した際、用紙の両面にプリントします。 1:ｵﾝ **2:ｵﾌ**	59
	22:ﾊｯｼﾝﾓﾄ ｲﾝｼﾞ （発信元印字）	原稿送信時、原稿上部に日付・時刻、発信元名、発信元番号などを付けて送信するかどうかを設定します。 **1:ｵﾝ** 2:ｵﾌ	29
	23:ｶﾞｲﾌﾞﾃﾞﾝﾜ ｾﾂｿﾞｸ （外部電話接続）	外部電話機や留守番電話機を接続したときに必ず設定する必要があります。 1:ｵﾝ **2:ｵﾌ**	39

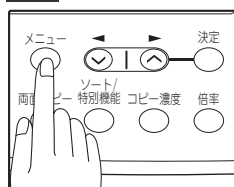
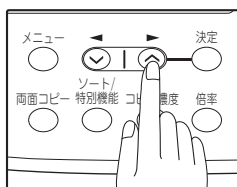
項目	設定（太字が工場出荷時）	ページ
24:TEL/FAX ｼﾞﾄﾞｳｷﾘｶｴ （TEL/FAX自動切替）	受信モードが“ジドウ”に設定されているとき、かかってきた電話が通話かファクスかを判断し、自動的に電話とファクスを切り替えます。 1:ｵﾝ→ﾖﾋﾞﾀﾞｼ ｶｲｽｳ 入力（00～15）（呼び出し回数入力（00～15）） **2:ｵﾌ**	40
25:ﾀﾞｲﾔﾙ ｲﾝ ｾｯﾃｲ （ダイヤルイン設定）	ダイヤルインサービスを利用するときに設定します。 1:ｵﾝ→ﾀﾞｲﾔﾙ ｲﾝ NO = ####（4桁のダイヤルイン番号を入力します。） **2:ｵﾌ**	42
26:ﾄﾚｲ ｾﾝﾀｸ （トレイ選択）	1段給紙ユニット装着時は、受信データのプリントに使用するトレイを指定できます。 **1:ｼﾞﾄﾞｳ（自動）** 2:ﾄﾚｲ1 3:ﾄﾚｲ2	22
5:ｼﾞｭｼﾝｷｮﾋｾｯﾃｲ ｷﾉｳ（受信拒否設定機能）		
1:ｼﾞｭｼﾝｷｮﾋｾｯﾃｲ （受信拒否設定）	特定のファクス番号からのファクス受信を受け付けないように設定できます。 1:ｵﾝ **2:ｵﾌ**	75
2:ｼﾞｭｼﾝ ｷｮﾋ ﾊﾞﾝｺﾞｳ （受信拒否番号）	受信を受け付けない相手のファクス番号を登録または消去します。 1:ﾄｳﾛｸ（登録） 2:ｼｮｳｷｮ（消去）	76
6:ﾙｽﾊﾞﾝ ﾃﾞﾝﾜ ｾｯﾃｲ（留守番電話設定）		
1:ｼﾞﾄﾞｳ ｼﾞｭｼﾝ ｷﾘｶｴ （自動受信切替）	留守番電話機の伝言録音機能がいっぱいのため、伝言メッセージを録音できなくても、ファクス受信を可能にします。 1:ｵﾝ **2:ｵﾌ**	41
7:ｹｲｼﾞﾊﾞﾝ ｾｯﾃｲ（掲示板設定）		
1:1ｶｲ （1回）	1回のみ掲示板送信を行います。	69
2:ﾑｾｲｹﾞﾝ （無制限）	読み込みデータを消去するまで、繰り返し掲示板送信を行えます。	
すでに掲示板のメモリーに原稿データが格納されている場合は、次の設定項目を表示します。		
1:ﾂｲｶ （追加）	新たに原稿を読み込んで追加することができます。	70
2 ｼｮｳｷｮ （消去）	掲示板のメモリーに読み込んだ原稿データを消去します。	
8:ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ	ポーリング受信を行うときに設定します。	67
9:ｼﾞｭﾝｼﾞ ﾎﾟｰﾘﾝｸﾞ （順次ポーリング）	連続して複数の相手とポーリング受信を行うとき（順次ポーリング）に設定します。	68

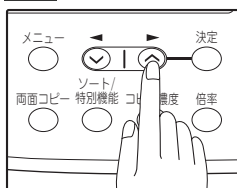
機能の選択および設定方法

ここでは、ファクス機能の基本的な設定方法を説明しています。下記手順を参照して92～95ページの項目を設定してください。

［メニュー］キーを押したあと、数字キーで設定項目を選択することもできます。（設定項目の番号は、項目の先頭に表示されます。）数字キーで項目番号を入力すると、該当する項目が選択または確定されます。

1 [モード選択]キーを押して、ファクスモードを選択する

ファクスランプが点灯し、ファクスモードが選択されます。

2 [メニュー]キーを押す

ディスプレイに“ファクスメインメニュー”と表示されます。

3 [◄]キー（⌄）または[►]キー（⌃）でメニュー項目を表示させ、[決定]キーを押す

項目が選択されます。この操作を繰り返して目的の項目を選択してください。

4 設定内容を選択または入力する

- 設定内容を選択するときは、[◄]キー（⌄）または[◄]キー（⌃）で選択します。
- 設定内容を入力するときは、数字キーで文字または数字を入力します。

メモ

- 設定する項目をまちがえたときは、［クリア］キー（C）を押したあと、手順2からやり直してください。
- ファクス機能の設定を中止するときは、［メニュー］キーを押してください。

5 [決定]キーを押す

選択または入力した内容が確定されます。

6 [メニュー]キーを押す

待機状態に戻ります。

索引

目的別索引

準備

登録／設定

ファクスの送信／受信

便利な通信機能

お客様へ…お買いあげ年月日、お買いあげ店名を記入されますと、修理などの依頼のときに便利です。
修理・お取り扱い・お手入れについてのご相談ならびにご依頼は、お買いあげの販売店
もしくは、取扱説明書（共通編）に記載の“お客様ご相談窓口”へお問い合わせください。

お買いあげ年月日	年　　　月　　　日
お買いあげ店名	
	電話番号

● シャープホームページ	http://www.sharp.co.jp/

シャープ株式会社

本　　　　　　　社　〒545−8522　大阪市阿倍野区長池町22番22号
ドキュメントシステム事業本部　〒639−1186　奈良県大和郡山市美濃庄町492番地

この取扱説明書は環境に配慮した植物性大豆油インクを使用しています。
この取扱説明書は再生紙を使用しております。

PRINTED IN CHINA
2005C　　KS1
TINSJ1417QSZ1